

和仏法律学校講義録

竹井, 耕一郎 / 寺尾, 亨 / 古賀, 廉造 / 副島, 義一 / 勝
本, 勘三郎 / 秋山, 雅之介

(出版者 / Publisher)

和佛法律學校

(巻 / Volume)

3-8

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

51

(発行年 / Year)

1899-05-30

和佛清講義 佛學精華

(再版)

每月貳回

第八號

目次

憲法	(自七七頁至八四頁)	法學士副島義一
刑法各論	(自一四二頁至一四九頁)	法學士勝本勘三郎
國際公法	(自一六四頁至一七四頁)	法學士秋山雅之介
行政法	(自一〇九頁至一二四頁)	法學士竹井耕一郎
刑法總論	(自四九頁至五六頁)	法律學士古賀康造
萬國平和問題	(自一六頁至一六頁)	法學博士寺尾亨



090
1899
3-1-8

主權ヲ失フルモノト謂フコトヲ得サルナリ凡ソ國家カ自己ノ定メタル法規ニ拘束セラレハ憲法行政法等公法ノ存在シ得ル唯一ノ原因ナリトス若シ國家ハ現在ノ法令ニ拘束セラレハモノニアラス即チ法律以外ノ現象物ナリトセハ憲法行政法ハ法トシテ存在シ得ルト謂フコトヲ得サルヘシ何トナレハ國家カ法ニ拘束セラレハモノニアラストスルトキハ國家ト他ノ人格トノ間ニ法律上ノ關係ヲ生スルコトナク隨テ憲法行政法等ノ如ク國家ノ人民ニ對スル關係ヲ規定シタルモノハ之ヲ法律的ノ規定ト謂フ能ハサルヲ以テナリ

「アイツ」ハ主權トハ或人格カ他ノ權力者ヨリ全ク獨立無關係ナル政務ノ範圍ヲ有スルモノヲ指シテ謂フモノナリ故ニ經令其政務ノ範圍ニ制限アルモ其制限セラレタル範圍内ニ於テ獨立無關係タルヲ得ハ主權ヲ有スルナリ唯政務ノ範圍ニ制限アル場合ニハ其主權ハ分割セラレタルモノナリト云ヘリ此「アイツ」主權分割說ハ稍解シ難キ點アリ若シ主權トハ獨立無關係ノコトヲ指シテ謂フトセハ獨立無關係其事カ分割シテ存在シ得ルトハ解シ難キ所ナリ故ニ主權分割トハ事務ノ分配ノ義ト解セサルヘカラス分配セラレタル事務ニ付キ獨立ノ

地位ヲ有スルヲ指シテ主權ト曰ヒタルモノト解セサルヘカラス斯ク云ヘハ敢テ誤謬ノ說ト謂フニアラサルモ若シ主權ヲ此ノ如ク解セハ或團體カ他ノ團體ヨリ支配セラレサル地位ヲ有スルコト言ヒ表ハス爲メニハ如何ナル時ヲ用ヒントスルカ尤モ國際間ノ關係ニ於テ主權國ト云フハ獨立不羈ノ地位ヲ有スルヲ指シテ謂フナリ即チ國際間ニ於テ甲國カ主權ヲ有スト云フハ甲國ハ乙國丙國ニ命令シ得ル最高ノ權力ヲ有スト謂フ意ニアラスシテ唯單ニ獨立ノ地位ヲ有スルヲ指シテ謂フナリ故ニ國際間ニテ主權ヲ有スト云フハ高下ノ關係ヲ言ヒ表ハスモノニアラスシテ反テ平等ノ關係ヲ言ヒ表ハスモノタリ之ニ反シ國法上ニ於テ主權ト云ヘハ唯單ニ獨立ノ地位ヲ有スルヲ指シテ謂フニアラス他ヨリ高キ位ヲ有シ他ヨリ支配セラレズ他ヲ支配シ得ル法律上ノ權力ヲ有スルヲ指シテ謂フナリ

最高權ノ意義ハ上ニ述フル所ニ依リ零明瞭ナリ此最高權ハ國家ノ定義ニ必要ナルヤ即チ最高權ハ國家ノ必要ナル性質ナルヤ是レ大ニ爭ノ存スル所ナリ然レトモ此爭ハ連邦國ニ生スル所ニシテ我國ノ如キ單一國ニ於テハ斯ル爭ヲ生

スルコトナシ即チ國家ハ最高ノ權力ヲ有シ國家内ノ各人權ニ對シ統治スル權ヲ有シ而シテ他ノ人格ヨリ統治セラレハコトナク又他ノ國家ヨリ統治權ノ作用ヲ受クルコトナキハ論セスシテ明ナル所ナリトス但獨乙帝國瑞士共和國ノ如キ連邦國ニ於テハ數多ノ國家ノ結合シテ一大領地團體ヲ組織セルモノニテ其連邦國內ノ組合國ハ更ニ連邦國ヨリ統治ヲ受クルヲ以テ即チ他ニ最高ノ權力ヲ戴クヲ以テ此組合國ハ最高權ヲ有セスト謂ハサルヘカラサルニ似タリ若シ最高權ハ國家ニ必要ナル性質トスルトキハ連邦國カ國家ナルヤ各組合國カ國家ナルヤ將タ又兩國共ニ國家ナルヤノ疑ヲ生ス若シ最高權ハ國家ノ必要ナル性質トスレハ此等ノ關係ハ如何ニ之ヲ説明スヘキカ其説明ノ方法ハ大凡ソ三途アルヘシ即チ連邦國組織ノ場合ニハ最高權ハ連邦國ト各組合國トノ間ニ分割セラレタルモノニシテ此兩國共ニ國家タルヘシトノ說ト各組合國カ最高權ヲ有スルモノニテ即チ國家タリ連邦國ハ純然タル國家ニアラスト爲ス說ト連邦國カ最高權ヲ有スルモノニテ即チ國家タリ各組合國ハ真正ノ國家ニアラスト爲ス說ト即チ是ナリ然レトモ連邦國ハ國際上他ノ國家ト同一ノ人格ト

シテ條約ヲ結フ等諸般ノ作用ヲ爲シ又國法上ニ於テモ直接ニ臣民ニ對シテ統治權ヲ行フモノナルニハ之ヲ國家ニアラスト爲スト得サルヘク又連邦國內ノ各組合同モ他ノ國家ト同一ノ性質ヲ有スルコト多ク且通常ノ地方團體トハ大ニ異ナル所アルニハ之ヲ國家ニアラスト謂フ能ハサルナリ斯ク連邦國モ各組合同モ等シク國家ナリトシ而シテ最高權ハ性質上分割シ得サルモノト爲ストキハ最高權ハ國家ノ定義ニ必要ナル性質ト爲スト得サルニ至ル故ニ「モール」ラバ「ド」シユルチエ「エリ」チ「マイ」エル等ノ諸大家ハ皆主權ハ國家ノ必要ナル性質ニアラスト爲セリ凡ソ此等ノ疑問ヲ決スルハ獨乙ノ如キ連邦國ニ於テハ實際上法理上甚タ必要ノ事ナルヲ以テ彼ノ國ニ於テハ實ニ諸大家ノ議論ノ焦點ト爲レリ然レドモ我國ノ如キ單一國ノ國法ヲ説明スルニハ非常ニ必要ニハアラサルヲ以テ此等ノ學說ニ關スル説明ハ之ヲ省略スヘシ但國家ノ性質ヲ一般ニ研究スルニハ此等ノ問題モ多少研究シ置ク必要ハ存スヘシ。

以上述フル如ク主權ハ國家ナル人格ノ性質ヲ言ヒ表ハス爲メニ用ヒラル、モノナレトモ元ト主權ナル語ハ國家ナル觀念ノ未タ大ニ發達セサルトキニ生シ國

家ノ或機關ノ地位ヲ言ヒ表ハス爲メニ用ヒラレタルコトアルヲ以テ今日ニ於テモ此用法ハ仍ホ存シテ國家ノ或機關ヲ主權ヲ有スル機關ト云フコトアリ主權ヲ有スル機關トハ國家ノ機關中ニ在リテ最高ノ地位ヲ有スル者ヲ謂フ最高ノ地位ヲ有スル機關トハ外部ニ向テ國家ノ確定ノ意思ヲ發表シ他ノ機關ヲ設定シ其權限ヲ定ムル權限ヲ有スル者ヲ謂フ通常主權者ト曰フハ即チ此最高機關ヲ指シテ謂フナリ即チ國權ノ總攬者ヲ謂フナリ君主國ニ於テハ君主ヲ主權者ト爲ス共和國ニ於テハ通常人民ヲ以テ主權者ト曰ヘトモ共和國ニ於テモ選舉權ヲ有スル人民ヲ以テ直ニ國家ノ最高機關ト爲スト得ス國家ノ最高ノ意思ヲ有効ニ發表スルモノハ憲法制定機關立法機關ナルヲ以テ人民ヲ以テ直ニ主權者ト謂フ能ハサルナリ

又主權ナル語ハ國家ノ或作用ノ地位ヲ言ヒ表ハス爲メニ用ヒラル、コトアリ即チ主權ノ作用ト曰ヒテ國家ノ他ノ作用ト區別スルコトアリ立法作用ノ如キ是ナリ

第五節 國體ノ區別

國體ヲ三種ニ區別スルハ希臘「アリストテレス」ヨリ始マル所ナリ「アリストテレス」ハ國體ヲ分テテ君主國貴族國民主國ノ三種トセリ即チ希臘附ノ「セナルヒ」トハ一人政治「デモクラチー」ハ人民政治「アリストクラチー」トハ貴族政治ト云フ義ナリ然レトモ學者ニ依リ或ハ國體ヲ君主國及ヒ共和國ノ二種ニ分ツ者アリ蓋シ此說ニ從ヘハ貴族國ニ於テモ人民カ國權ヲ有スルモノニテ貴族ハ唯人民ノ名ニ於テ國權ヲ行フニ過キサルモノト爲スナリ或ハ國體ヲ二種ニ分テテ君主國民主國ト爲シ貴族國ハ或ハ之ヲ民主國ノ中ニ入ル、アリ其他此等ノ國體ノ外ニ神政國ナルモノヲ認ムル者アリ神政國トハ人間以外ノ神ナル者カ國權ヲ有スト爲スノ說ナリ固ヨリ歷史上或時代ニハ國家ノ支配ヲ爲ス者ハ神ニシテ人間ハ唯神ノ意ヲ受テテ國權ヲ執行スル者ナリトノ考モ行ハレタルヘシ然レトモ法律學ハ法律上ノ現象物タル人格ノ事ヲ研究スルモノナレハ人格以外ノ神ヲ以テ國權ヲ有スト爲スカ如キ考ハ直ニ之ヲ法學上ノ説明ノ中ニ入ル、ヲ得サルナリ唯歷史上ニ於テハ此ノ如キ考ノ人民中ニ行ハレタルコトヲ配聽

スレハ足ルナリ希臘學者ノ說ハ今日ニ於テモ仍ホ行ハル、區別ナントモ此區別モ亦希臘時代ノ各國ノ國體ヲ觀察シテ立テタル區別ニシテ其當時ニ在リテハ或ハ適當ノ區別ナリシヤモ知レザレトモ時世ノ變遷ニ隨ヒ歷史上種々ノ國體ヲ生シタルヲ以テ今日ニ於テ國體ノ區別ヲ立ツルニハ必スシモ此區別ヲ以テ満足スルヲ須ヒサルナリ且希臘時代ノ區別ハ政治上ノ觀察點ニ從テ立テタル區別ニシテ純然タル法理上ノ觀察ニ從ヒタル區別ニアラサルナリ凡ソ國體ノ區別ニ付キ其說ヲ異ニスルハ其區別ノ標準ヲ異ニスルニ由ル國體ノ區別ヲ爲スニ付キ諸種ノ標準アリ今其中ニ付キ最モ正確ナル標準ニ據リ區別ヲ爲サント欲ス

既ニ述ヘタル如ク何レノ國家ニ於テモ最上機關ノ存セサルハナシ然レトモ各國ノ制度ノ異ナルニ隨ヒ此最上機關ノ組織ヲ異ニス故ニ國體ノ區別モ此最上機關ノ組織ノ異ナルニ隨ヒ之ヲ立ツルコトヲ得ルナリ此標準ニ據リ國體ノ種類ヲ區別スレハ左ノ如シ

第一 君主制國體 或一人ノ自然人カ其固有ノ權利トシテ國家最上機關ノ地位

ヲ充タスコトヲ得ルトキハ其國家ハ君主國トス
 第二 共和制國 共和國トハ多數人ヨリ成立ツ合議體ヲ以テ國家ノ最上機關
 ト爲ス國ヲ謂フ
 第三 混合制ノ國 混合制ノ國トハ純然タル君主制國ニモアラズ又純然タル
 共和制國ニモアラズシテ此兩制度ヲ混合スル國ヲ謂フ
 君主國ノ中ニ專制君主國及ヒ立憲君主國ノ兩種アリ此兩種ノ國ニ於テ當然國
 家最上機關ノ地位ヲ占メ國權ヲ總攬スル者ハ一人ノ自然人ナリト雖モ專制國
 ニ於テハ君主ハ國家ニ於ケル唯一ノ獨立機關トシテ全國權ヲ隨意ニ執行スル
 ヲ得決シテ他ノ機關ノ制限ヲ受ケサルナリ之ニ反シ立憲國ニ於テハ君主ハ或
 範圍内ノ國家意思ヲ發表スルニハ他ノ機關ノ制限ヲ受ケルモノニテ其機關ノ
 協賛ヲ經ルニアラスンハ有効ノ國家ノ意思ヲ發表スルヲ得サルナリ然レトモ
 君主國ニ於テハ何レノ君主モ他ノ機關ノ行爲ニ因リテ其地位ヲ得ルモノニア
 ラズ自己固有ノ權利トシテ其地位ヲ充タスコトヲ得ルナリ
 共和國ノ中ニハ數多ノ種類アリ先ツ共和國ヲ分チテ民主國及ヒ貴族國ト爲ス

病院ニ在ル負傷者ニ對シテハ敵人ノ之ヲ厚遇セサルヲ常トスルカ故ニ或ハ同胞
 ヲ助ケントノ意ヲ以テ彼ニ屬スルノ醫師又ハ看護士等之レナキヲ保セスト
 ノ理由ニヨリ敵ノ病院若クハ野戰病院ニ^〇專屬セル醫師看護士……其他
 ノ者ハ此限ニアラストノ明文アリタリキ之ニ付テ或學者ハ假令敵ノ病院又
 ハ野戰病院ニ專屬セル醫師看護士等ト雖モ皆同胞ヲ救援セント欲スルノ意
 思ヲ有スル者ト云フ可カラス或ハ敵ノ負傷者ヲ醫シ以テ其戰鬥力ヲ扶クン
 トノ意思ヲ有スル者亦之レアル可シ然ルニ草案ノ如ク總テ此等ノ者ヲ無罪
 トスルハ是レ此等ノ般ニ背叛罪ヲ特許スルモノナリトテ一モ二モナク草案
 テ蹂躪シ去レリ然レトモ是レ草案ヲ精讀セス從テ草案者力其途ニ確定法文
 ニ於テ自己ノ意見ノ容レラレサリシニモ拘ラス尙ホ飽マテ其註解ニ於テ修
 正ノ不當ヲ絶叫シテ止マサル所以ヲ知ラサルニ起因スルモノトス我輩ノ見
 ル所ニ依レハ草案者ノ意ハ單ニ個人的ニ人類ノ先天的博愛心ニヨリ敵ヲ醫
 シタル者ハ假令其身敵ノ軍中ニ在ルモ是レ敵ヲ利シ若クハ我ヲ害セント云
 フカ如キ意思換言セハ本國ニ背叛シテ敵ニ附屬スルノ意思ナク偏ニ人類自

然ノ至情ヲ全フセント欲シタル者ニ外ナラサルカ故ニ之ヲ罰スルトスルハ夫ノ恰モ赤十字社々員タル中立國ノ人民カ敵味方ノ區別ナク自傷者ヲ救護スルノ所爲ヲ非難スルト一般文明國ノ法律タルヲ得スト云フニ在リテ學者カ云フカ如ク仁術ヲ利用シテ以テ本國ニ背叛シタル者迄モ之ヲ無罪トス可シトノ意ニ非サラム(草案ノ文中所謂病院ニミ專屬トノ文字以テ之ヲ證スルニ餘アレハナリ)從テ學者ノ如ク一概ニ之ヲ改竄シ去ルハ少シク酷ニ失スルモノアリ唯此ノ如キ明文ニ對シテハ畢竟冗文タリト云ハンノミ豈シ草案者ノ云フカ如キ場合ハ明文ヲ要セスシテ無罪タルモノナレハナリ

(二)此場合ニ於テハ背叛若クハ敵兵等ノ文字アリテ交戰中ノ行爲タルヲ要スルハ明瞭ナルカ故ニ夫ノ第一ノ場合ノ如ク戰爭中ノ者ト否トヲ問ハサル者トハ聊カ區別アル者ナリ

第二節 處分

處分ニ付テハ死刑ニ處ストアリテ別ニ說明ノ要ナシ唯一言ス可キハ本條ニ於テ立法者カ單ニ死刑ニ處ストシテ第二百一十一條ノ場合ニ於タルカ如ク其犯罪

人ノ位地身分ノ如何ヲ問ハサルハ是レ本國ニ抗敵シタル者ハ非日本の動物ニシテ絶對的ニ吾人ト共存ノ條件ヲ具ヘサルカ故ナリ

第二項 敵國ヲ幫助スル罪若クハ敵國ニ内應スル罪

前ニモ述ヘタルカ如ク第二百二十九條ノ所爲モ第三百十條乃至第三百三十二條ノ所爲モ共ニ本國ニ背叛スルノ所爲タリ然レトモ前者ハ本國ヲ去リ身ヲ敵軍ニ投スルカ如キ公然タル所爲アル者ニシテ後者ハ現ニ我臣民若クハ我國ノ在留者トシテ我法律ノ保護ヲ受クルト同時ニ我ノ之ヲ信スルニモ拘ラヌ陰ニ欺テ敵ニ通スルノ所爲タルカ故ニ佛國ノ學者ハ前者ヲ「ボールダルム」(port d'arme)持兵器罪又ハ抗敵罪後者ヲ「トライズム」(Traison)背叛又ハ背信罪トセリ余カ茲ニ第三百十條乃至第三百三十二條ノ罪ヲ一括シテ之ヲ内應罪ト名クシテ第三百二十九條ノ罪ト區別スル所以亦之ニ外ナラサルナリ

此區別ノ結果ヨリシテ第二百二十九條ハ前ニモ述ヘタルカ如ク外國人ハ日本國ニ忠實ナラサル可カラサル義務ナシトノ理由ニ因リ之ヲ外國人ニ適用スルコ

ト得ルモノ本項ノ規定ハ之ヲ外國人ニ適用スルコトヲ得ルヲ原則トス蓋シ
外國人(中立國ノ人民タルト敵國ニ屬スル人民タルヲ問ハス)ト雖モ我治下ニ在
リテ其生命財産ヲ保護セラル、限リハ是レ即チ順民タルヲ表章スルト同時ニ
我政府ノ信用ヲ受クルモノナルカ故ニ之ノ陰ニ欺テ敵ニ通スルハ背信ノ所爲
タルヲ免レサレハナリ但シ我現行法ノ解釋上果シテ之ヲ罰スルコトヲ得ルヤ
否ヤハ後ニ講説スル所ニ依リテ之ヲ知ル可シ尤モ本論ハ在留外國人ニノミ關
スルモノニシテ非在留外國人ハ第百二十九條ト第百三十條以下ノ所爲トノ區
別ナク原則上總テ無罪ノ者ナリト了知ス可シ)

第一段 第百三十條ノ罪

法文ニ曰ク「交戰中敵兵ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若クハ本國及ヒ同盟國
ノ都府城塞又ハ兵器彈藥船艦其他軍事ニ關スル土地家屋物件ヲ敵國ニ交付シ
タル者ハ死刑ニ處ス」ト

本條ハ二箇ノ犯罪ヲ規定セリ曰ク「(一)交戰中敵兵ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシ
ムルノ罪(二)本國及ヒ同盟國ノ都府城塞又ハ兵器彈藥船艦其他軍事ニ關スル土

地家屋物件ヲ敵國ニ交付スル罪是ナリ余ハ便宜ノ爲メ二者ヲ合併シテ説明ス
可シ而シテ尙ホ其處分法及ヒ成立條件中「(一)日本人タルコト」(二)交戰中ノ所爲タ
ルコトハ法文ニ依リテ明ナルカ故ニ之ヲ略シ單ニ二罪ノ特種ナル點ニ付キ講
説ヲ試ム可シ

(一)本條第一ノ罪ヲ構成スルニハ「敵兵ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメタルコト」
ヲ要ス―草案ニハ領土内トアリ故ニ單ニ陸地内ト解セサル可カラサルカ如
シト雖モ茲ニ管内トハ領域内ト云フノ義ニシテ陸地ハ勿論領海ヲモ包含ス
ルモノト信ス……本國管内ニ入ラシメタル場合ノミヲ規定シテ同盟國管
内ニ入ラシメタル場合ヲ規定セサルハ是レ缺點ニシテ草案修正ノ際脱漏セ
シモノナラン

(二)第二ノ罪ヲ構成スル爲ニハ「本國及ヒ同盟國ノ都府城塞又ハ兵器彈藥船艦其
他軍事ニ關スル土地家屋物件ヲ敵國ニ交付シタルコト」ヲ要ス―都府城塞……
……ヲ敵國ニ交付スルコトヲ要スルカ故ニ此等ノ物ヲ破壞又ハ傷毀シタル
場合ニハ假令敵國ヲ利スルノ意思タルモ犯罪ヲ構成セサルヤ勿論ナリ唯注

意ス可キハ此等ノ罪ハ通常軍人ニ非サレハ之ヲ犯スコトヲ得サルモノニシテ軍人之ヲ犯サハ陸軍刑法五十三條海軍刑法五十九條ヲ適用ス可キモノトス

第二段 第三百三十一條ノ罪

法文ニ曰ク本國及ヒ同盟國ノ軍情機密ヲ敵國ニ漏泄シ若クハ兵隊屯集ノ要地又ハ道路ノ險夷ヲ敵國ニ通知シタル者ハ無期流刑ニ處ス敵國ノ間諜ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若クハ之ヲ藏匿シタル者亦同シト

本條ハ三個ノ犯罪ヲ規定ス曰ク(一)本國及ヒ同盟國ノ軍情機密ヲ敵國ニ漏泄シタル罪(二)兵隊屯集ノ要地又ハ道路ノ險夷ヲ敵國ニ通知シタル罪(三)敵國ノ間諜ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若クハ之ヲ藏匿シタル罪是ナリ本條ノ罪モ亦其處分及ビ(一)日本人タルコト(二)交戦中ノ所爲タルコトヲ要スルハ前條ト同一ニシテ亦説明ノ要ナキカ故ニ之ヲ省キ以テ前例ニ依ラント欲ス

(一)第一ノ場合ノ罪ヲ構成スルニハ本國及ヒ同盟國ノ軍情機密ヲ敵國ニ漏泄シタルコトヲ要ス軍情機密トハ軍事上及ヒ政事上ノ秘密ヲ意味ス漏泄トハ

次ノ場合ニ所謂通知ト同一ノ意義ナリ然ルニソノ之ヲ通知ト云ハスシテ漏泄ト云ヘルハ是レ第一ノ場合ハ其通知ノ事項ハ通常敵國ノ得テ知ル可カラサル者即チ秘密ナルカ故ニミ他意アルニ非サルナリ

(二)第二ノ場合ノ罪ヲ構成スルニハ兵隊屯集ノ要地又ハ道路ノ險夷ヲ敵國ニ通知シタルコトヲ要ス本國又ハ同盟國ノ兵隊屯集ノ要地トハ本國又ハ同盟國ノ兵隊カ屯集セル要地ト云フノ義ニ非スシテ政守ノ爲メ兵隊ヲ屯集セシム可キ要害ノ場所本國若クハ同盟國內ニ於タルト云フノ義ナリ誤ルヘカラス蓋シ前者ノ意味ナリトセハ是レ即チ軍情機密ノ一タルニ外ナラサルモノニシテ要スルニ兵隊屯集ノ要地トハ次ノ所謂道路ノ險夷ト聯對シ以テ一ハ軍隊ノ去留ス可キ場所他ハ其進退ス可キ場所ヲ云フノ意ニ外ナラサルナリ

(三)第三ノ場合ノ罪ヲ構成スル爲ニハ敵國ノ間諜ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若クハ之ヲ藏匿シタルコトヲ要ス茲ニモ亦本國管内トノミアリテ同盟國ノ管内テフ文字ナキハ缺點ナリ間諜トハ公然爭鬭者ノ一員トセシテ敵

情ヲ探知スルノ任ニ該レル者ヲ云フノ義ナリ然リト雖モ草案ニ於テハ茲ニ所謂間諜ニ公然爲戰者ノ一人タル斥候兵ヲモ規定シテ強ヒテ之ヲ除外ス可キノ理由ナキカ故ニ余ハ茲ニ所謂間諜トハ此二者ヲ包含スルモノト信ス藏匿トハ有形ト無形トヲ問ハズ總テ發見ヲ妨シ可キ一切ノ所爲ヲ云フ隨テ自己ノ家屋又ハ他ノ場所ニ隱秘セシムルハ勿論故ヲ服裝其他容貌ヲ變セシメ以テ發見ヲ妨タルノ行爲モ亦此中ニ包含ス之ヲ誘導シテ管内ニ入ラシメ若クハ之ヲ藏匿シタル所爲ニ限ルカ故ニ敵兵ノ飢渴ヲ救ハンカ爲メ之ニ衣食ヲ給スルカ如キハ本條ノ罪人タルコトナシ

尙ホ茲ニ一言ス可キハ敵國ノ間諜トハ外國人ニシテ敵國ノ間諜タル者ヲ指ス者ニシテ日本人ニシテ敵ノ間諜タル者ニハ適用スルコトヲ得ス蓋シ此ノ如キ場合ニハ其所謂日本人ハ第二百二十九條ノ犯人タルカ故ニ之ノ誘導シ又ハ藏匿シタル者ハ或ハ百二十九條ノ從犯トナリ或ハ罪人藏匿罪トナルニ過キナレハナリト云フノ說アレトモ是レ曲解ナリ間諜ノ日本人タルト外國人タルトニ依リ一ハ本條ニ問ヒ他ハ百二十九條ノ從犯若クハ罪人藏匿罪

トシテ之ヲ論シ以テ彼此刑罰ニ輕重ヲ爲ス可キ理由ナキノミナラス其罪人藏匿罪ナリト云フニ至リテハ妄モ亦極マレリト云フ可シ蓋シ間諜トシテ敵ニ屬シタハアル者ヲ藏匿スルハ犯後ノ所爲ニ非サレハナリ

第三段 第三百三十二條ノ罪

法文ニ曰ク陸海軍ヨリ委任ヲ受ケ物品ヲ供給シ及ヒ工作ヲ爲ス者交戦ノ際敵國ニ通譯シ又其路遺ヲ收受シテ命令ニ違背シ軍備ノ缺乏ヲ致シタル時ハ有期流刑ニ處ス

本條ノ罪ハ五箇ノ要素ヲ以テ成立ス

第一日本人タルコトヲ要ス

第二交戦中ノ所爲タルコトヲ要ス

第三犯罪ノ主體ハ陸海軍ヨリ委任ヲ受ケ物品ヲ供給シ又ハ工事ヲ爲ス者タルコトヲ要ス

第四敵國ニ通譯シ又ハ其路遺ヲ收受シテ命令ニ違背シタルコトヲ要ス

第五軍備ノ缺乏ヲ致シタル結果アルコトヲ要ス

第一ノ要素日本人タルコト——此點ニ付テハ第三百三十三條ト共ニ後ニ論スル所アル可シ

第二ノ要素交戦中ノ所爲タルコト——是レ前ニ屢述ヘタル所ナレハ省略ス

第三ノ要素犯罪ノ主體ハ陸海軍ヨリ委任テ受ケ物品ヲ供給シ又ハ工作ヲ爲ス者タルコト——物品ヲ供給シ及ヒ工作ヲ爲ス者タルヲ要スルカ故ニ其以外ノ者ニアリテハ假令陸海軍ノ委任ヲ受クル者ト雖モ本條ノ制裁ヲ受クルコトナシ例ヘハ陸海軍ノ命ニ依リ物品ノ運搬若クハ人夫ヲ供給スル者ノ如キ是ナリ委任ヲ受ケタル者タルヲ要スルカ故ニ受任者ノ命ニ依リ物品ヲ供給シ又ハ工作ヲ爲ス者例ヘハ職工雇人ノ如キハ本條ノ所爲アルモ本條ヲ適用スルコトヲ得ス

第四ノ要素敵國ニ通謀シ又ハ其賂遣ヲ收受シテ命令ニ違背シタルコト——通謀トハ敵ト意ヲ通シテ軍備ノ缺乏ヲ致サシコトヲ謀ルノ義ナリ然リ而シテ賂遣ヲ收受シタル者ハ必ス常ニ通謀ノ實之ニ伴隨ス可ク隨テ既ニ通謀ト云ヒ更ニ又賂遣ヲ收受シト云ヘルハ冗句タリト思フ者アルヘシト雖モ是レ一テ

見テ二テ見サルモノナリ何トナレハ賂遣ヲ贈ル者ノ中ニハ自ラ未ダ敵ニ附屬セシテ隱然敵ニ盡サントスルカ如キ者亦之レ有ルヘタレハナリ是レ法律ノ賂遣ノ收受ハ多クハ通謀ノ實アルニ拘ハラス故ラニ二者ヲ區別セル所以ナリ

第五ノ要素軍備ノ缺乏ヲ致シタル結果アルコト——草案第五百五十四條ニ曰ク「總テノ日本人政府若クハ海陸軍省ヨリ陸海軍ノ爲メ工作若クハ供給ヲ爲スノ命令ヲ受ケ敵ト通謀シ若クハ内部又ハ外部ヨリ來リタル賂遣ヲ受ケ契約ニ記載シタル期限若クハ方法ニ隨ヒ其約ヲ履行セザリシトキハ……」ト而シテ其註ニ曰ク「刑罰ハ前ニ記載シタル背叛罪ヨリ二級ヲ減セリ是レ其害ノ少クトモ想像上小ナル可キカ故ナリ蓋シ或供給若クハ或工作ヲ缺クコトアルモ之ニ依リテ當然軍備ノ缺乏ヲ生スルコト無カル可タレハナリ尤モ一時刑罰ノ輕重ヲシテ結果ノ輕重ニ伴ハシメントセシカ裁判所ハ其違ニ何レノ原因ニ因リテ其結果ヲ生セシヤヲ知ル可カラサルノ困難ヲ生スルカ故ニ違ニ之ヲ廢セリ」ト依之觀是草案ニ於テハ一時結果ノ發生ト否トニ因リ刑罰ニ輕重

ヲ設クント企圖シタリト雖モ其註ニ述フルカ如キ理由ニ因リ遂ニ之ヲ廢シ
右ニ掲ケタル法文ニ於テハ單ニ命令違背ノミヲ以テ罪ヲ構成スヘシトレ
タルモ其確定法文タル本條又更ニ軍備ノ缺乏ヲ致シタル時ハ……トノ文
字ヲ加ヘタルカ故ニ本條ノ罪ハ夫ノ恰モ毆打致死罪ニ於テ單ニ毆打シテ負
傷セシメタルトキハ毆打創傷ノ各本條ニ依リ之ヲ罰スルニ依リテ毆打致死
未遂犯ナルモノハ決シテ之レ有ラサルト一般結果ノ發生ニ因リテ始メテ成
立スルモノタルカ故ニ之レナクシテ單ニ命令違背ニノミ止マルトキハ
常ニ無罪タルノミニシテ其未遂犯ナルモノナカラン是レ恐ラク法文ノ缺點
タリ

第二款 外患ノ誘引ヲ成形スル罪

學者或ハ第百三十三條及ヒ第百三十四條ノ罪ニ冠スルニ國際法上ノ罪若クハ
列國ノ和親ヲ害スル罪ヲ名稱ヲ以テセリ該二條規定スル所ノモノハ國際法
ヲ破リ若クハ列國ノ和親ヲ害シ以テ善隣ノ交ヲ傷クルコト素ヨリナリト雖モ
ソノ我立法者力之カ本節即チ外患ニ關スル罪ヲテ節目ノ下ニ規定シテ國事犯

罪ノ一トシタルノ點ヨリ之ヲ案スレハ蓋シ我立法者ハ學者ノ云フカ如キ點ヨ
リ觀察シテ罪トシタルニ非スシテ此等ノ所爲ハ往々外患ノ誘引ヲ成形スルモ
ノタリト云フノ點ニ在リ是レ余カ外患ノ誘引ヲ成形スル罪ヲ名稱付スル所
以ナリ

本款ハ二個ノ犯罪ヲ規定ス曰ク外國ニ對シ私ニ戰端ヲ開ク罪曰ク局外中立ノ
法令ニ違背シタル罪是ナリ

第一項 外國ニ對シ私ニ戰端ヲ開クノ罪

第百三十三條ニ曰ク「外國ニ對シ私ニ戰端ヲ開キタル者ハ有期流刑ニ處ス其豫
備ニ止ル者ハ一等又ハ二等ヲ減ス」ト

(甲)成立要素 本條規定スル所ノ罪即チ外國ニ對シ私ニ戰端ヲ開キタル罪ハ左
ノ三要素ヲ以テ成立ス

(一)犯罪ノ主體ハ日本人タルコト

(二)外國ニ對スルコト

(三)私ニ戰端ヲ開キタルコト

第一ノ要素 犯罪ノ主體ハ日本人タルコトヲ要ス―此點ハ前條ニ於ケル同ノ要素ト共ニ後ニ後ニ説明スヘシ

第二ノ要素 外國ニ對スルコトヲ要ス―外國トハ前ニモ述ヘタルカ如ク一定ノ土地ノ上ニ或ル獨立ノ主權ヲ有セル人民ノ團體ニシテ即チ外國政府國家ノ義ナリ外國ノ國家全體ニ對スルノ行為タルヲ要スルカ故ニ夫ノ一人又ハ數人ノ外國人民ニ對スルノ行為ハ本罪構成ノ要件ヲ成サス

第三ノ要素 私ニ戰端ヲ開キタルコトヲ要ス―(一)私ニトハ日本政府ノ命令又ハ許可ニ因ラスシテノ義ナリ(二)戰端ヲ開キタルコトハ戰爭テフ行為ノ實行ニ著手シタルノ義ナルヲ將タ戰爭ノモノ、一部ヲ行ヒタルノ義ナルヲ解者或ハ(イ)茲ニ戰端トアルト(ロ)本條ニ相當スル佛文章案第二編第三章國際法ニ對スル重罪輕罪第一節中立ヲ害シタル罪ノ第一條第一項ニ日本ノ宣戰セサル外國ニ對シ陸軍又ハ海軍遠征ヲ企テ(根本人ニ付テ云フ若クハ指揮隊長ニ付テ云フ)シタル凡テ日本人ハ云々佛文章案ニ於テハ現行法第二百一十一條ノ場合ニ於ケルカ如ク犯人ノ地位身分ニ依リテ刑ヲ異ニセザルカ爲メ

金テタル者ハ云々指揮シタル者ハ云々要務ヲ執リタル者ハ云々…等ノ文字アリキ第二項ニ其實行ノ端緒ニ著手シタルトキハ云々第三項ニ單ニ豫備ヲ爲シタルニ過キサルトキハ云々トアルト(ハ)茲ニ所謂戰端ナル文字ヲ第二ノ意義即チ戰爭ノモノ、一部ト解スルトキハ本條ニハ其豫備ニ止ル者ハ一等又ハ二等ヲ減ストアルカ故ニ例ヘハ兵隊ノ召集軍備品ノ買入船糧ノ輸送等戰爭豫備中ノ行為モ軍隊ノ進行中障礙ニ因リテ遂クサリシ戰爭着手未遂ノ行為モ(總則ニ依リ)同一ノ刑ニ科セラル、ノ不都合ヲ見ルトニ因リ之ヲ案スルトキハ茲ニ所謂戰端トハ戰爭實行ノ端緒ト云フノ義ナリトテ有(ハ)點ノ不都合ヲ避クノコトヲ試ムル者アル可シト雖モ是レ所謂前門拒テ拒キ後門虎ヲ進ムルノ論ノミ宜シク第二ノ意味ニ解スヘシ何トナレハ解者ノ云フカ如クハ戰爭ノ未遂ト豫備トノ刑ニ付テハ法文上不都合ヲ感セサルニ至ル可クレトモ戰端ヲ開キトハ戰爭ノ實行ニ著手スルノ義ニシテ其豫備ノ其ハ戰端ノ戰ナル文字ノミヲ受ケタルモノナリト云フカ如キ奇怪ナル文法ヲ認メサル可カラサルノ結果若シ法文通リニ讀ミ下ストキハ戰端ヲ開キトハ戰

争ヲ實行ノ着手ナルカ故ニ其豫備トハ戦争實行ノ着手ノ豫備トナリテ殆ソト意味ヲ爲サ、ルニ至ルヘシ之ニ反シテ第二ノ意義ニ解スルトキハ戦争ノ未遂ト豫備トノ刑ハ法文上之ヲ同一ニセサル可カラサルノ不都合アリト雖モ解者ノ云フカ如ク法文全體ヲシテ文義不通ノモノタラシムルニ至ルカ如キ不結果ヲ見サレハナリ

(2)處分 處分ニ付テハ法文ノ示スカ如ク本罪ヲ犯シタル者ハ有期流刑ニ處シ其單ニ豫備ニ止マル者ハ有期流刑ヨリ一等又ハ二等ヲ減スルモノニシテ格別説明ス可キモノナシ唯一言本條ノ處分法ニ付テ非難ス可キ點ハ(一)右ニ述ヘタルカ如ク立法者一等又ハ二等ヲ減シテ豫備ヲ罰ストシタルノ結果之ト未遂犯ニ科ス可キ刑罰トノ權衡ヲ失ハシメタルコト(二)本條ノ犯人モ亦通常第二百一十一條ノ犯人ノ如ク多數相團結シテ其間數段ノ階級アルニモ拘ラス第二百一十一條ノ如ク數段ノ刑ヲ設クサルコト是ナリ

第二項 局外中立ノ布告ニ違背シタル罪

近世ノ開明諸國ニ於テハ若シ外國互ニ干戈ヲ交ユルニ際リ自國ノ之ニ關シテ

何等ノ關係ヲモ有セサルトキハ常ニ戰局ノ外ニ立チテ之ニ干與セス之ヲ名クテ局外中立ト云フ然リ而シテ此中立ヲ全セシカ爲ニハ獨リ政府ノミナラス尙ホ通シテ一般臣民ヲシテ之ヲ嚴守セシメ以テ爲戰者ノ一方ヲシテ我ニ疑ヲ懷カシムルコトナキヲ要ス是ニ於テ乎各國皆豫メ或ハ基本法ヲ以テ或ハ臨時ノ特別法ヲ以テ局外中立違背ノ所爲ニ對スル制裁ヲ規定セサルハナシ我刑法第百三十四條ニ曰ク外國交戦ノ際本國ニ於テ局外中立ヲ布告シタル時其布告ニ違背シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加スト今ヤ進ンテ本罪ノ成立要素及ヒ其處分ニ付テ説ク所アラントス

甲 成立要素 局外中立違背ノ罪ハ三個ノ要素ヲ以テ成立ス(一)犯罪ノ主體ハ日本人ナルコト(二)局外中立ノ布告アルコト(三)之ニ違背シタル所爲アルコト是ナリ以下各要素ニ付テ詳説セシ

第一 犯罪ノ主體 日本人タルコトヲ要ス 此要素ノ必要ナル所以ハ本國ナル文字ノ存スルカ故ニシテ其詳細ハ已ニ述ヘタルヲ以テ更ニ贅セス

第二 局外中立ノ布告アルコトヲ要ス 本條ノ冒頭ニ外國交戦ノ際ナル文字ア

レトモ是レ蛇足ナリ何トナレハ局外中立ナルモノハ素ト自國以外ノ甲國ト乙國若クハ或外國中ノ甲黨ト乙黨ト力互ニ干戈ヲ交ユルノ際其何レニモ相與セサルコトヲ意味スルモノニシテ外國交戦ノ際ニ非サルヨリハ決シテ局外中立テフコトノ存在ス可キコトナクハナリ

法律ハ局外中立ノ布告ニ違背シタルコトヲ要スルカ故ニ假令局外中立ノ實アルコトヲ知リナカラ之ニ違背スト雖モ未タ何等ノ布告ナキ以上ハ本邦構成ノ限リニ非サルナリ蓋シ本國ニ於テ局外中立ヲ守ルヤ否ヤハ一ニ政府ノ意思如何ニ依リテ定マルモノニシテ政府ノ意思ハ其之カ表示タル法律及ハ命令ニ依ルニ非スハ之ヲ確知スルコトヲ得サレハナリ但シ法律ノ不職ハ刑罰ヲ免ル、ノ原因タラサルカ故ニ苟モ一旦其之ニ對シテ違奉ノ義務アル法律命令ノ發布アラシカ人民ハ之カ不知ヲ理由トシテ其實ヲ免ル、コトナシ

第三局外中立ノ布告ニ違背シタル所爲アルコトヲ要ス一凡ソ外國交戦ノ際發布セラル可キ局外中立ノ布告ハ其規定ノ方法ニ付キ二個ノ種別アリ(一)中立

ノ布告ト共ニ其違背トナル可キ所爲ヲ列記若クハ例示スルモノ(二)局外中立ヲ守ル可キコトヲ布告スルノミニシテ其果シテ如何ナル所爲カ中立違背ノ所爲タルヤヲ示サ、ルモノ是ナリ前者ノ場合ニ於テハ其列記若クハ例示セラレタル所爲ニ非スハ中立違背ノ所爲タルコトナシト雖モ後者ノ場合ニ於テハ法律ハ如何ナル所爲カ中立違背ナルヤノ準繩ヲ示サ、ルカ故ニ單ニ國際公法ノ慣例ニ基キ其違背ノ所爲タルヤ否ヤヲ定メサル可カラス然リ而シテ今其二者何レヲ可トス可キヤニ付テハ余ハ(一)凡ソ一國ノ臣民ハ皆悉ク國際法ヲ知ルモノニ非サルノミナラス(二)如何ナル所爲カ中立違背ナルヤハ或顯著ナル場合ヲ除キテハ國際公法學者ノ間ニ於テモ議論紛々タル所ナルカ故ニ立法者タル者ハ宜シク前者ノ方法ヲ擇ビ以テ如何ナル所爲カ中立違背タルヤヲ明ニスルヲ以テ至當ナリト信ス夫レ然リ如何ナル所爲カ局外中立ニ違背スルモノナルヤ否ヤハ中立命令發布ノ曉ニ非サレハ之ヲ詳ニスルヲ得スト雖モ今從來ノ國際慣例ニ依リテ其一班ヲ示サハ夫ノ交戦國ノ一方ニ兵器彈藥船艦等ヲ給スルカ如キハ中立違背ノ所爲トシテ何人モ異論ナキ

所ナレトモ糧食若クハ石炭ヲ給與スルカ如キ所爲ニ付テハ今日尙キ議論ノ一定セサルモノトス

乙處分——本罪ノ處分ニ付テモ亦別ニ説明スヘキコトナシ唯立法上玆ニ一言ス可キハ立法者カ此所爲ヲ概括シテ國事ニ關スル罪トシ科スルニ國事犯ノ刑ヲ以テシタルハ聊失當タルヲ免レス宜シク國事犯ニ科ス可キ刑ト常事犯ニ科ス可キ刑トヲ置キ以テ裁判官ヲシテ自由ノ探擇ヲ爲サシム可キコト是ナリ

附款 本節ノ規定ハ之ヲ外國人ニ適用スルコト

ヲ得可キヤ

本節ノ講述ヲ終ルニ臨ミ本節ノ規定ハ之ヲ外國人ニ適用スルコトヲ得ルヤ否ヤハ本節ニ關スル重大ナル問題ナルヲ以テ余ハ本節ノ附款トシテ聊之カ説明ヲ試ミント欲ス——余ハ便宜ノ爲メ先ツ本問題ヲ分チテ第一日本ニ在留セサル外國人ニ對スル場合第二日本ニ在留セル外國人ニ對スル場合トシ更ニ各之ヲ立法論及ヒ解釋論ノ二ツニ細分シテ論究ス可シ

甲、日本ニ在留セサル外國人ニ對スル場合——日本ニ在留セサル外國人ハ日本ニ對シ忠節ヲ盡スノ義務ナキハ勿論其信義ヲ守ルノ義務タモ之ナキノミナラス凡ソ一國ノ法律ハ特別ノ例外ナキ限リハ其主權ノ行ハル、版圖内ニ於テノミ之カ強行力ヲ有スルノミニシテ政令ノ行ハレサル外國ニ對シテハ何等ノ效力ヲモ有スルモノニ非サルカ故ニ立法上ニ於テモ解釋上ニ於テモ本節ノ規定ハ之ヲ日本ニ在留セサル外國人ニ適用スルコトヲ得サルナリ

乙、日本ニ在留セル外國人ニ對スル場合

(一)立法論——一方ニ於テ前ノ場合ニ述ヘタルト同一ノ原則ニ依リ凡ソ一國ノ刑法ハ——特別ノ例外ナキ限リハ——其版圖内ニ於テ無限ノ強行力ヲ有スルモノナルト假令外國人ト雖モ苟モ我國ニ在留シ我法律ノ下ニ其身體生命財產ノ保護ヲ受クル以上ハ我國ノ信義ニ背タ可カラサルノ義務アルトニ由リ在留ノ外國人ハ其對手國ノ人民タルト否トヲ問ハス總テ我法律ノ制裁ヲ甘セサル可カラスト雖モ(他ノ一方ニ於テ)在留ノ外國人ハ素ト是レ屬旅ノ客ニシテ吾人臣民カ日本國ニ對スルカ如ク其在留國ニ對シテ忠節ヲ盡スノ義務換

言スレハ護國ノ義務ナキカ故ニ本國以外ノ國ニ對シテハ去就ノ自由ヲ有スルト同時ニ彼等ハ其何レノ邦國ニ在留スルモ本國ニ對スル護國ノ義務ヲ免ルハモノニ非ラサルトニ由リ假令外國人ハ我國ニ抗敵スルノ所爲アルモ之ヲ罪トシ論ス可キモノニ非サルカ故ニ第二百二十九條即チ抗敵ノ所爲ヲ罰スルノ規定ハ之ヲ外國人ニ適用スルコトヲ得サルモ其他ノ規定ハ之ヲ外國人ニ適用スルコトヲ得ルモノトス

(二)解釋論—學者或ハ曰ク凡ソ一國ノ刑法ハ明白ニ例外ヲ規定スルニ非スノハ其版圖内ニ於テハ完全ナル強行力ヲ有スルヲ以テ原則トスルモ本節ノ規定中或法條ニハ特ニ本國ナル文字アリテ本國トハ犯人カ國籍ヲ有スル國トノ義ナルカ故ニ本節中本國ナル文字アル法條ハ之ヲ外國人ニ適用スルヲ得ス然レトモ其之レ有ラサル第三百三十二條及ヒ第三百三十三條ノ罪ハ原則ニ從ヒテ在留外國人ニモ亦之ヲ適用スルコトヲ得ヘシト此說ハ或ル點ニ於テハ法理ト沿革トヲ無視スルモノニ非スゾハ論者ノ不注意ヨリ來レル謬說ニシテ他ノ點ニ於テハ多少法律ヲ曲解シタルノ嫌ナキ能ハス(論者ノ說ニ依レ

ハ第二百二十九條ノ如キ抗敵罪ト雖モ尙ホ之ヲ外國人ニモ適用スルコトヲ得ルヲ以テ原則トスルカ如シト雖モ此ノ如キハ學說ニ於テモ立法ニ於テモ未タ曾テ其例ヲ見サルノミナラス現ニ我草案第五百十六條及ヒ其二編三章國際公法ニ對スル重罪輕罪第一節二條二項ニ於テ本節ニ關スル外國人ノ犯罪ハ第三百三十條現行法以下ノモノニ限り之ヲ罰スト規定シアリテ第二百二十九條ハ外國人ニ適用セサルモノタルヲ明ニセルニ依リテ之ヲ觀レハ現行法ニ於テ獨リ此原則ヲ認メサルノ理アルヘカラス是レ余カ論者ノ說ハ此點ニ付テハ法理ト沿革トヲ無視シタルニ非スゾハ不注意ヨリ來レル謬說ナリト云フ所以ナリ

(三)第三百三十條以下ノ規定ニ付テ論者ハ第三百三十二條及ヒ第三百三十三條ノ規定ニ限リ本國ナル文字ナク隨テ法律ハ例外ヲ置カサルモノナルヲ以テ之ヲ外國人ニ適用スルコトヲ得ヘシト曰ク成程第三百三十二條第三百三十三條ハ本國ナル文字ナシ然レトモ之ヲ以テ他ノ條項ハ之ヲ外國人ニ適用セサルニ拘ラス此二條ハ之ヲ外國人ニ適用シ得ヘシトスルノ理由何處ニアルヤ論者

ハ曰ハシ然リ他ノ條項ハ之ヲ除外スルニモ拘ラス獨リ此二條ニ限り之ヲ原
則ニ依ラシメサル可カラサルノ理由アルコトナシ隨テ是レ或ハ立法者ノ疎
漏ナラン然レトモ立法者ノ疎漏ハ解釋者之ヲ補フヲ得スト夫レ然リ豈夫レ
然ラシヤ余ノ見ル所ニ依レハ(第一)草案ニハ其第五百十六條及ヒ國際公法ニ
對スル重罪輕罪第一節二條二項ニ本節ノ規定ハ(現行法第百二十九條ノ場合ヲ
除ク)外一等ヲ減シテ外國人ニモ亦之ヲ適用スト規定シアリタルニモ拘ラ
ス其遂ニ刪除セラレタルハ是レ論者力云フカ如ク一國ノ刑法ハ凡テノ在
住セル者ニ適用セラル可キモノナリトノ原則ノ完全ナル適用ヲ希圖セシニハ
非スシテ夫ノ草案第五條六條七條ノ刪除セラレタルト同シク外國人ニハ適
用セサルノ趣旨タルハ本節中第百三十二條第百三十三條以外ノ條項ニハ(該
二條ノ所爲ト同一ノ性質ヲ有スルニモ拘ラス)何レモ皆特ニ本國ナル文字ヲ
リテ明ニ外國人ニハ適用スルヲ得サルコトヲ明言スルニ依リテ明白ナルノ
ミナラス第二其立法者力此二條ニ限り本國ナル文字ヲ加ヘサリシハ是レ一
ハ此二條ハ論者ノ云フカ如ク強ヒテ之ニ本國又ハ日本人ナル文字ヲ加ヘシ

トスルトキハ恰モ直譯體トナルカ若クハ文章冗長トナルノ嫌アルカ故ニ文
章ノ結果上之ヲ入ルノ餘地ナキト他ハ此等ノ文字ナキモ本條ト同性質ヲ
有スル他ノ條項トノ必然ノ關係上此二條ノ罪モ亦日本人タラサル可カラサ
ルヲ知ルヲ得可キトニ因リ故ラ之ヲ脫シタルモノニシテ論者ノ思惟スルカ
如ク此二條ニ限リテハ之ヲ原則ニ依ラシム可シトノ趣旨ニ非サルハ勿論立
法者ノ疎漏ニ因リテ本國若クハ日本人等ノ文字ヲ脫シタルニハ非サルナリ
隨テ論者ノ云フカ如ク偶此二條ニ日本人タルヲ要ス可キ明白ナル文字ナキ
ヲ寄貨トシ外國人ニモ亦之ヲ適用シ得可シトスルハ到底偏見タルヲ免レヌ
是レ余カ此點ニ付テハ論者ハ法律ヲ曲解シタル嫌アリト云フ所以ナリ一結
論右ノ理由ニ因リ余輩ハ謂ラク解釋上ニ於テハ本節ノ規定ハ凡テ之ヲ外國
人ニ適用スルコトヲ得スト

第三章 靜謐ヲ害スル罪

本章ハ佛文草案第二編第四章 crimes et délits contre la paix publique 即チ公ノ平和
ヲ害スル罪ニ相當ス草案ノ註釋ニ曰ク「本章規定スル所ノ所爲ヲ名タテ公ノ平

和ヲ害スル罪トスル所以ハ其何レモ皆公權ヲ蔑視スルノ結果國家力保障セザ
ト欲スル所ノ公ノ安全秩序及ヒ靜穩ヲ害スルカ故ナリト本章ノ表題ト草案ノ
表題トハ些カ相異ルモノアルモ其規定スル所ノ事項ノ彼此大差ナキヲ見レハ
茲ニ我立法者カ本章規定スル所ノ所爲ヲ一括シテ靜穩ヲ害スルノ罪トシタル
所以亦草案ノ趣旨ニ外ナラサラン然レトモ(一)本章中第六節即チ往來通信ヲ防
害スル罪ノ如キハ放火決水等ノ所爲ト同シク靜穩ヲ害スル所爲即チ民心ヲ擾
亂シ以テ一般公衆ヲシテ其堵ニ安ゾスル能ハサラシムルノ所爲タルモ之ヲ以
テ特ニ公權ヲ侵害スルノ結果ナリト云フヲ得サルト同時ニ夫ノ第二節乃至第
四節即チ官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪、囚徒逃走ノ罪、附加例ノ執行ヲ違ル
罪及ヒ第八節第九節即チ官ノ封印ヲ破壞スル罪、公務ヲ行フヲ拒ム罪ノ如キハ
公權ヲ侵害スルノ所爲タリト雖モ之ヲ以テ特ニ靜穩ヲ害スルノ結果ヲ生スル
モノナリト云フヲ得サルノミナラス(二)第七節ニ規定スル所ノ人ノ住所ヲ侵ス
罪ハ之ヲ公安ヲ害スル罪ト云ハシヨリハ寧ロ一人ノ自由ヲ害スルノ所爲ト
云フ可キモノナルカ故ニ余ハ本章ノ規定中第一節ノ兇徒聚衆罪第五節ノ私ニ

軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪及ヒ第六節ノ往來通信ヲ妨害スルノ
罪ハ夫ノ浮浪罪放火罪及ヒ決水ノ罪ト共ニ本章所謂靜穩ヲ害スル罪テヲ表題
ノ下ニ規定シ第二節乃至第四節第八節第九節ノ罪ト第七節ノ罪トハ別ニ一ハ
公權ヲ侵害スル罪、一ハ人ノ自由ニ對スル罪テヲ表題ヲ設ケテ各其下ニ規定ス
ルヲ以テ至當ナリト信ス

右ニ述ヘタル如ク本章ノ表題ハ些カ穩當ナラサモルノアルモ以下余ハ例ニ依
リ法典ノ順序ニ從ヒテ本章規定スル所ノ九個ノ罪ヲ説明ス可シ

第一節 兇徒聚衆ノ罪

兇徒聚衆ト云フモ夫ノ博徒又ハ強盜等ノ相集リテ不良ノ事ヲ企ツルカ如キ所
爲ヲ規定シタルニ非ス單ニ多衆嘯聚シテ暴動ヲ爲スノ所爲ヲ規定シタルモノ
ノニシテ暴動ヲ企ツルノ前ニ於テハ未タ之ヲ兇徒ト云フヲ得サルカ故ニ本節
ノ表題ハ宜シク之ヲ多衆嘯聚罪又ハ暴動ノ罪ト改ム可シ

法律ハ本節ニ於テ(一)暴動ヲ爲シタル罪(二)暴動ヲ謀リタル罪(三)暴動ノ際人ヲ殺
死シ若クハ家屋船舶倉庫等ヲ燒燬シタル罪ヲ規定セリ依テ余ハ以上之ヲ三段

第一段 暴動ヲ爲シタル罪
 第百卅七條ニ曰ク兇徒多衆ヲ囂聚シテ官廳ニ喧鬧シ官吏ニ強逼シ又ハ村市ヲ
 騷擾シ其他暴動ヲ爲シタル者首魁及ヒ教唆者ハ重懲役ニ處ス其囂聚ニ應シ煽
 動シテ勢ヲ助ケタル者ハ輕懲役ニ處シ其情輕キ者ハ一等ヲ減ス附和隨行シタ
 ル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
 本罪ハ左ノ二個ノ要素ヲ以テ成立ス(一)多衆ヲ囂聚シタルコト(二)暴動ヲ爲シタ
 ルコト是ナリ
 第一ノ要素―多衆ヲ囂聚シタルコト―法文ニハ兇徒多衆ヲ囂聚シトアレトモ
 兇徒カ多衆ヲ囂聚シテ暴動ヲ爲シタルヲ規定スルニ非スシテ兇徒互ニ相集
 ヲリテ暴動ヲ爲シタル罪ヲ規定シタルモノナルカ故ニ宜シク多衆囂聚シテ云
 ヲト改ム可シ是レ余カ茲ニ多衆囂聚トスル所以ナリ多衆囂聚トハ讀テ字ノ
 衆如ク多人數相集ルコトヲ意味スルモノナリ其果シテ幾人以上ヨリ之ヲ多衆
 軍ト云フ可キヤ否ハ法律ノ規定ナキ所ナルカ故ニ偏ヘニ事實裁判官ノ判定ニ

委スルモノトス
 第二ノ要素―暴動ヲ爲シタルコト―暴動ノ何タルハ法律之ヲ定義セスト雖モ
 茲ニ法律カ其重ナルモノヲ例示スル所ニ依リテ之ヲ案スルニ暴動トハ多人
 數相集リ暴力又ハ威力ニ藉テ社會ヲ喧器騷擾スルノ謂ニシテ俗ニ所謂百姓
 一揆ノ如キモノヲ云フモノトス官廳ニ喧鬧シ官吏ニ強逼スルトハ強テ或事
 ヲ請願セシカ爲メ多人數相集リテ竹槍席旗ヲ押立テ官廳ニ押寄セ又ハ官吏
 本ニ迫ルノ類ヲ云ヒ村市ヲ騷擾スルトハ兇年ニ際シ服賄ヲ促サシカ爲メ多人
 數威カ又ハ暴力ヲ以テ富豪ノ門ニ迫ルカ如キ類ヲ云フ
 處分ニ付キテハ第百二十一條ノ處分法ト大同小異ナルヲ以テ之ヲ説明セズ諸
 君ハ彼此相對照シテ其義ヲ明カニセラル可シ
 終ニ臨ミ本罪ニハ實行ノ端緒ト云フ可キ場合アリヤトノ問題アレトモ之レナ
 シトスル情極論ニハ格別ノ理由アルヲ見ス余ハ勿論積極ニ決定ス可キモノト
 信ス蓋シ多人數相集リ官廳ニ喧鬧セシカ爲メ今ヤ竹槍席旗ヲ押立テ官廳ニ向
 テ進行シテハアルモノハ暴動ヲ爲シタルニモアラス又其豫備ヲ爲スニモ非ス

實行ノ端緒ニ外ナラサレハナリ但シ之ヲ實行ノ端緒トシテ本罪ニ未遂犯アリ
 否ヤノ問題ハ次ニ述フル所ノ第二段ノ場合ト大ニ相關係スルモノアルカ故
 ニ後ニ之ヲ詳説ス可シ
 第二段ノ場合ニ暴動ヲ謀リタル罪ニ關スルモノアルカ故
 第三百三十六條ニ曰ク兇徒多衆ヲ囂聚シテ暴動ヲ謀リ官吏ノ説諭ヲ受クルト雖
 モ仍ホ解散セサル者首魁及ヒ教唆者ハ三月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス附和
 隨行シタル者ハ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス
 本罪ハ左ノ三要素ヲ以テ成立ス
 (一)多衆囂聚シタルコト(二)暴動ヲ謀リタルコト(三)官吏ノ説諭ヲ受クルモ仍ホ
 解散セサルコト
 第一ノ要素――多衆囂聚シタルコト――此點ハ已ニ説明セシカ故ニ之ヲ略ス
 第二ノ要素――暴動ヲ謀リタルコト――暴動ノ何タルハ更ニ之ヲ再説セス茲ニ謀
 リトハ如何ナルコトヲ意味スルヤ文字ノ正面ヨリ解釋スルトキハ第一百十一
 條ニ所謂罪ヲ犯サンコトヲ謀リツ、アルト同シク暴動ノ陰謀ヲ爲スノ義ト解

釋セサル可カラサルカ如キモ(一)若シ此ノ如ク解センカ茲ニハ暴動ノ陰謀ヲ
 爲シタル場合ヲ第百卅七條ニハ暴動ヲ爲シタル場合ヲ規定スルコトナリ
 ナ豫備ヲ爲シタル場合ニ付テハ全ク其規定ヲ缺如スルノ結果暴動ノ陰謀ヲ
 爲スノ際官吏ノ説諭ヲ受クルモ解散セサルトキハ本條ニ依リテ有罪タルニ
 モ拘ラス進テ豫備ニ至リタルトキハ縱令官吏ノ説諭ニ依テ解散セサルモ
 罪トナラサルカ如キ不都合ヲ見ルノミナラス(二)茲ニ法律カ本條ニ於テ官吏
 ノ説諭ヲ受テ解散シタルトキハ之ヲ無罪トストノ規定ヲ設ケタルハ是レ
 未タ必スシモ之ヲ罰セサル可カラサル程ノ實害ヲ生セサルカ故ニ犯人ニ有
 利ナル規定ヲ設ケ以テ之ヲシテ成ル丈ク大事ニ至ラサシメントノ政策ニ
 由テタルモノニシテ其所謂實害ヲ生セス隨テ有利ナル規定ニ依テ犯人ヲ誘
 引スルノ必要ハ必スシモ陰謀ニ限ラス豫備ニ至リタル場合ト雖モ尙ホ之レ
 アルニ依リテ之ヲ罰レハ茲ニ謀リトハ文字ノ正面ニ示スカ如ク單ニ陰謀ヲ
 爲ストノ義ニ非スシテ豫備ノ場合ヲモ包含スルモノト信セラルサテ謀リト
 ハ豫備ノ場合ヲモ之ヲ意味スルモノトシテ進テ實行ノ端緒ハ之ヲ包含セサ

ルヤ曰ク、
 (一)若シ謀リトハ豫備ノ場合ヲモ備之ヲ意味スルモノナリトスル我輩シ解
 釋ニシテ誤チカラシメシカ我立法者ハ已ニ謀リト云フ文字ノ正面ノ意味ヲ
 打破シテ豫備ノ場合ヲモ備之ヲ包含スルヲ暗トシタルカ故ニ苟モ明ニ能
 ノ法條ニ衝突セサル限リハ尙ホ着手ノ場合ヲモ包含セシムルノ暗トシタリ
 ト解釋スルニ必スシモ理由ナシト云フ可カラサルト(二)着手ノ場合ト雖モ尙
 ホ豫備ノ場合ニ於ケルカ如ク未タ一定ノ實害ナキノミナラス凡ソ暴動ノ所
 爲ハ國事犯ト異リテ多クハ犯人一時ノ情念ニ基因スルモノナルカ故ニ往々
 說諭ニ依リテ解散シ以テ大罪ニ至ラサルコト其例乏シカラズ然ルニ若シ夫
 レ已ニ着手ニ至リタリトテ必ス之ヲ罰ス可キモノトスルトキハ徒ニ罪人ヲ
 増加スルノミニシテ益スル所ナキトニ因リテ之ヲ觀レハ茲ニ謀リトハ着手
 ノ場合ヲモ備之ヲ包含スルモノト解ス可キモノト信ス然レトモ夫ノ或學
 者カ我輩ト共ニ本條ニ所謂謀リトハ着手ノ場合ヲモ意味スルモノトシナカ
 タ第百三十七條ノ所爲ニハ實行ノ端緒ト云ヒ得ヘキ場合アリテ實行ノ端緒

條約ニ於テハ自國人ノ他國ニ於ケル犯罪者ヲ其國ニ引渡サ、ルヲ以テ普通ト
 爲セリ其理由トスル所ハ自國人民ハ自國ノ法權ニ絕對的服從ヲ爲スモノナルヲ
 以テ外國ニ於ケル犯罪モ本國ニ於テ處刑スルコトヲ得ヘタシテ外國人ノ他國
 ニ於ケル犯罪ヲ罰スルコトヲ得サルカ如キニアラサルヲ以テナリ之ヲ例セハ
 我改正刑法第六條ニ於テ法律ハ帝國人帝國外ニ於テ放火強姦其他生命身体及
 ヒ財產ニ對シ犯シタル重罪ニ付テモ又之ヲ適用ストルカ如シ然レトモ國家
 ノ管轄權ハ之ヲ他國ノ版圖ニ及ホスコト能ハス隨テ刑法ノ制定及ヒ其規定ノ主
 タル精神ハ版圖内ニ於ケル犯罪ニ對スルモノナラサルヲ得ス加之列國ハ今日
 ニ於テモ我舊刑法ノ如ク全ク屬地主義ヲ探ルモノ少ナカラサルニ因リ自國人
 ノ他國ニ於ケル犯罪ヲ其國ニ於テ罰スルノ必要ナル場合アルノミナラス其審
 判ノ便宜上自國人ノ逃亡犯罪者ヲモ犯罪行為地ノ政府ニ引渡スハ却テ相互ノ
 便宜ナルヲ以テ千八百九十年英米條約ニテハ互ニ自國人ヲモ引渡スコト、爲
 シ一般學說ニ於テモ同一ノ傾向ヲ有セリ尤モ日米兩國犯罪人引渡條約ニテハ
 之ニ反シ其第七條ニ於テ締約國ハ本條約ノ條款ニ依リ互ニ其人民ヲ引渡スノ

義務ナク單ニ自國ニ於テ正當ト認ムルトキニ限リ引渡スコトヲ得ト規定セリ
 引渡ニ付キ重要ナル問題ハ日米引渡條約第四條ノ規定ノ如ク方今諸國ハ犯罪
 人引渡條約中ニ於テ政治上ノ犯罪者ヲ引渡スコトヲ禁シ又明治二十年勅令第
 四十二條逃亡犯罪人引渡條例第三條ニ於テモ引渡ノ請求ニ係ル者ノ所犯政治
 上ノ犯罪ナルトキ及ヒ引渡ノ請求ハ實際政治上ノ犯罪ニ付キ審問シ若シハ
 處刑セツトスル目的ニ出テタル旨本人ニ於テ證明シタルトキハ其犯罪者ヲ引
 渡スコトヲ得スト規定セリ故ニ我國ニ於テモ他國ヨリ若シ條約ニ依ラシテ
 政治上ノ犯罪者ヲ引渡スコトノ請求アリタル場合ニ於テハ右條例ニ依リ其請
 求ヲ拒絕スルコトヲ得ルモノトス斯ク諸國ニ於テ條約ニ依ルト否トニ係ハラ
 ス政治上ノ犯罪者ヲ本國ニ引渡ヲ爲サルノ理由ハ畢竟スルニ政治上ノ犯罪
 ハ其國主權ノ爭奪ニ關スルモノニシテ人類社會ニ對スル惡ムヘキ行爲ニアラ
 サルノミナラス時トシテハ却テ其國ニ對シテモ尊重スヘキ行爲タルコトアル
 ヲ以テ他國ニ於テハ之ヲ犯罪ト看做スコト能ハス加之之ヲ犯罪者トシテ賄待
 スルニ於テハ犯罪者本國人民一部ノ怨望ヲ來シ若シ叛亂ノ黨類ノ勢力ヲ得ル

ニ至ラバ非常ノ不利益ヲ招クヘキニ因リ自國ノ利害上引渡ヲ拒絕スルノ止ム
 ヲ得サルモノアルヲ以テナラバ其國ニ對シテモ尊重スヘキ行爲タルコトアル
 條約ニ依ラサル犯罪人引渡請求ノ拒絕ニ付テハ何タル問題ノ生スヘキ餘地ナ
 キモ條約ニ基クル場合ニ於テハ例ヘハ君主ヲ弑虐シ若クハ政黨ノ首領ヲ殺傷
 シタルカ如キハ政治犯ト殺人犯ト混合シ内亂ヲ起スノ目的ヲ以テ兵器金穀ヲ
 掠奪シタル場合ニハ強盜罪ニシテ國事犯タルカ如ク政治上ノ犯罪ト常事犯ト
 ノ間ニ區別ノ困難ナルモノ少ナカラサルナリ隨テ政治犯罪者ヲ條約ノ明文ニ
 基キ殺人罪又ハ強盜罪等ニ因リ其引渡ヲ請求スルトキハ果シテ其引渡ヲ拒絕
 シ得ヘキヤ否ヤ此點ニ付テハ問題ノ存スル所ニシテ學說ニ於テモ政治犯ノ性
 質及ヒ之ヲ常事犯ト區別スヘキ標準ニ付キ其說一定セサルノミナラス列國刑
 法ニ於テモ其規定互ニ一致セスシテ時トシテハ犯罪者ノ意思如何ヲ以テ之ヲ
 決シ政治犯ヲ爲スノ意思ニ出テタルモノハ暗殺者ト雖モ引渡ヲ拒ミ又時トシ
 テハ行爲如何ニ由リテ之ヲ區別シ政治上ノ動作ニ關係ナキ暴行ハ常事犯ト看
 做スモノアリテ其當否ヲ決スルハ最も困難ナル問題ニ屬ス何トナレハ個人の

ノ仇怨ト政治上ノ憤慨ト相合シテ一犯罪ヲ爲スコト屢々ニシテ愛國心ニ出タル企圖ニシテ政治上ノ權力者ニ對シテハ悲慘惡ムヘキ行爲ヲ爲スコトアルヲ以テナリ隨テ今日國際公法ニ於テハ此區別分明ナラス列國ハ政略上適宜ニ之ヲ處理スルモノ、如シ例ヘハ千八百九十年英國政府ハ瑞西人「カステオリ」ナル者叛亂ニ黨シ「ベリンソナ」公會所襲撃ノ際人民ヲ銃殺シタル者ヲ引渡スコトヲ拒絕シ千八百五十年何牙利叛亂ノ首謀者「ルイ・コシユス」米國ニ逃レントスルニ際シ佛國ハ其領内ニ入ルコトヲ拒絕シタルニ拘ラス英國ハ之ヲ歡迎シタルカ爲メ埃國政府ハ引渡ヲ請求シ露國政府モ其後楮ヲ爲シ英埃兩國ノ國交爲ニ被レシトセシカ英國外務大臣「ハートメルストン」ハ斷然其引渡ヲ拒絕シタル如キ是ナリ然レトモ近世ノ學者ノ主張スル所ニ依レハ社會黨又ハ無政府黨ノ行爲ノ如キ一國又ハ一政府ニ對スル犯罪ニアラスシテ廣ク國家政府組織ノ根柢ヲ顛覆セシカ爲メニ犯シタル犯罪ハ政治上ノ犯罪ニアラストシテ引渡ヲ爲スヘキモノトスルノ傾向アリ「ローレンス」ハ此點ニ付キ說ヲ爲シテ曰ク戰爭ニ於テモ戰鬪者タルト否トニ因リ等シク人ヲ殺傷スルモ適法ナルト犯罪ナルト

ノ區別ヲ生シ財産ヲ強取スルモ徵發ト強盜トノ賅ル、所ニシテ戰鬪者ト非戰鬪者タル自分ノ差異ニ圖リテ同一ノ行爲モ正當ト不法ト別カル、モノタリ然レトモ假令戰鬪者ニ於テモ暗殺毒害又ハ人民ノ虐待掠奪及モ財産ノ破壞ヲ行フコトハ國際公法ノ禁スル所トス故ニ政治犯ト雖モ暗殺其他陰險的ノ殺傷破壞ノ罪ノ如キハ縱令政治犯ノ意思ニ出タルモ之ヲ正當ト看做シ又ハ咎ムヘカラサルモノトスルコト能ハス隨テ露國皇帝「アレキサンデル」第二世ヲ襲撃彈ヲ以テ弑セルカ如キハ縱令政治犯ノ意思ニ出タルモ之ヲ普通ノ犯罪トシテ引渡ヲ爲スヘキノ至當ナルコトヲ主張シ國際法上此點ニ付キ速ニ慣例ノ一定スルニ至ルコトヲ希望セリ

第二項 外國船舶

軍艦其他國家ノ官船ニアラサル船舶ノ他國領海ニ入ルトキハ其管轄ニ服従スヘキ其船舶ノ海員モ陸地ニ於ケル外國人ト等シク其國ノ法律規則ヲ遵守スヘキモノタリ隨テ斯ル外國船舶等ノ自國港灣中ニ碇泊シ若クハ領海ニ入ルトキハ之ニ對スル本國主權ノ行使ハ領土主權ノ爲ニ中止セラレ其船舶乗組員及

船舶中ノ財産ハ悉ク其地方ノ法律並ニ裁判管轄ニ屬スヘキハ領海主權ノ性質上明白ナル所トス然レトモ佛國ニ於テハ古來自國港灣其他領海中ニ於ケル外國船舶内ノ行為ニ付キ二種ノ區別ヲ設ケ乗組員間ニミ關係ヲ有スル事件ニシテ船舶以外ニ何等ノ影響ヲ及ボサルモノハ自國ニ於テ管轄セス之ニ反シテ乗組員以外ノ人民ニ關係ヲ有スルモノ及ヒ乗組員間ノ事件ト雖モ地方ノ公安ニ付キ船舶以外ニ關係ヲ有スルモノハ之ヲ管轄スルコトセリ今其理由トスル學說ヲ見ルニ凡テ船舶ハ本國領土ノ一部ト看做シ其領土ノ延長又ハ繼續ト爲スヲ以テ地方ノ安寧ヲ害セサル以上ハ本國ノ法律ヲ及スコトヲ得ヘシトスルニ在リ然リト雖モ此學說ハ事理ニ反シ誤解ヲ來スヘキ危險ナル議論ト云ハサルヘカラス何トナレハ若シ其船舶ニ於テ海賊ノ行為アルカ又ハ他國ノ關稅法違犯ノ爲メニ沒取セラレ若クハ債權者ノ爲ニ差押ヘラルトキト雖モ之カ爲メニ船舶本國ノ領土ヲ外國ニ取得セラレタルモノト看做スコト能ハサルヘタ然ラハ領海中ハ例外トシテ若シ公海中ニ在ルトキハ船舶本國ノ領土ノ一部又ハ延長或ハ繼續ト看做シ得ヘキモノナリヤト云フニ是亦然ラスシテ若シ

其船舶ノ犯罪アリテ領海ヨリ退避セラレ公海ニテ逮捕セラル、場合ニ於テモ其行為ヲ以テ本國ノ領土ニ對スル管轄權ヲ破リタルモノト看做スコト能ハス又戰爭ニ際シテ中立國ノ此等船舶ハ交戰國軍艦ノ爲メニ臨檢搜查ヲ行ハレ戰時禁制品ヲ搭載スルカ又ハ封港ヲ破ルカ如キ中立ノ職務ヲ守ラサルトキハ沒取等ノ處罰ヲ受クヘキモノナレトモ之カ爲メニ其船舶本國ノ領土ヲ取得シ又ハ其領土ニ對スル主權ヲ侵害シタルモノトハ到底論スルコト能ハサルヲ以テ此領土ノ一部又ハ延長或ハ繼續トノ擬制ハ法理上其當ヲ得タルモノニアラス然レトモ此佛國ノ慣習ハ國際法上是認セラレタル道理ニ基キ居ラサルノミナラス又主權ノ版圖内ニ對スル原則ノ適用ヲ制限セントスル不法ノ論ナルニ拘ラヌ近世諸國ハ之ニ準據スル者多キヲ加フルニ至レリ蓋シ此慣習ハ實際上諸種ノ便宜ヲ與ヘ國家ノ外國船舶ニ對スル管轄ノ範圍ヲ地方ノ公安ニ必要ナル程度ニ止メ自國人又ハ自國ニ關係ナキ外國船舶中ノ事件ヲ自國ニ益ナクシテ處理スルノ煩ヲ除クト同時ニ船舶内ノ事務ノミニ關スルコトヲ本國ノ法律ニ一任スルハ船舶ニ取リテモ其寄港地ノ法律ニテ之ヲ裁判セラル、ヨリモ却テ非

常ノ便宜アルヲ以テナリ隨テ方今諸國ハ自國法律若クハ他國トノ條約ニ因リ外國船内ノ事件ニシテ地方ノ平和安寧ニ關係ナキモノハ其管轄ト爲サルモ多ク米國政府ハ千八百六十六年領海ニ於タル英國船舶ノ海員ニ對シ其義務ヲ履行セシムヘキコトニ付キ裁判權ヲ行フコトヲ拒絕シ千八百七十年以後埃國及ヒ獨逸國ト領事職務ニ關スル條約ヲ結ビ近年ニ於テハ列國間ニ同一ノ條約ヲ結ブモノ多ク我邦新條約締結ニ際シテモ獨逸、白耳義國等ト同一ノ約定ヲ爲シ締盟國在留ノ領事副領事又ハ領事代理ハ自國船舶ニノミ關スル事項ヲ在留國ニ於テ管理スヘキコトト規定セリ而シテ斯ル條約履行ニ關シ國家管轄權ト船舶本國ノ船舶ニ對スル權利ト牴觸スル如キ問題アルニ於テハ領土ノ主權ハ絶對的ナルヲ以テ性質上之ニ依テ其疑ヲ決スヘク其牴觸ナキ場合ニ於テノミ佛國慣習ハ諸國ノ準據スル所ト爲リ國際公法ノ法則ト爲ルニ至ルヘキカ如シ終ニ注意スヘキハ千八百九十二年巴里ニ於タル國際法協會ノ決議中其第六條ニ於テ領海ヲ通行スル外國船舶中ニ於テ犯セル重輕罪ニシテ沿岸國若クハ其所管者ノ利益ヲ侵害セサルモノハ沿岸國裁判管轄以外ニ居ルモノトス領海ヲ

通行スル船舶ハ領海ノ利益ノ爲メ沿岸國ニ於テ定メタル警察規則ニ服従スヘキモノトス又第七條ニ於テ領海内ニ回轉シ若クハ碇泊スル船舶ハ其地方ノ裁判權ニ服従スヘク沿岸國ハ領海内ノ犯罪者ヲ逮捕スル爲メ大洋ニ之ヲ追跡スルノ權利ヲ有ス然レトモ大洋ニ於テ之ヲ逮捕シタルトキハ其實事ヲ犯罪人本國ニ通知スヘシ云々ト規定セルコト是ナリ此規定タル未タ悉ク國際公法ノ法則ト爲スヘカラス就中第七條ノ規定ノ如ク領海内ノ犯罪者ヲ公海ニ於テ逮捕スルハ決シテ許スヘキ所ニアラス唯單ニ自國版圖内ニ於テ犯罪アリタル外國船舶若クハ其船舶ニ犯罪人ヲ搭載スルニ際シ領海ヨリ之ヲ追跡シテ公海ニ於テ逮捕シ得ヘキハ國際法ノ認ムル所ナリト雖モ此場合ニ於テハ其追跡ハ必ス領海内ニ於テ始ムルカ又ハ領海ヲ出ツルヤ否ヤニ始メタル場合ナルヲ要ス而シテ其公海ニ及フ追跡ヲ是認スル所以ハ領海内ニ始ムル場合ハ勿論之ヲ出ツルヤ否ヤニ其船舶ノ追跡ヲ始メタルトキハ領海内ニ始メタルト大差ナク其公海ニ及フモ自國管轄權ノ行爲ノ繼續ニシテ國家管轄權ノ行使ヲ確實ナラシムルニ必要ナルヲ以テナリ隨テ犯罪船舶ノ確實ナラサル場合又ハ犯罪人乗船ノ事實疑

ハシトキニ於テ之ヲ退離シ公海ニ於テ拘留又ハ逮捕スル如キハ不法ニシテ明治二十九年臺灣叛徒ノ首領劉永福ヲ搭載スルノ嫌疑ヲ以テ我軍艦ノ英國商船ヲ公海中ニ臨檢セルニ付キ英國政府ノ抗議ヲ來シタルハ其實例タリ又第六條中ニ付テモ前述ノ如ク領海内ニ國家ノ管轄權ヲ及ホスノ權利ナキニアラスシテ唯條約又ハ內國法ヲ以テ佛國ノ慣習ヲ實行スル傾向アルニ過キサルナリ

第三節 國外ニ對スル獨立權

國家主權ノ作用ニ付テハ二大原則アリテ一ハ主權ノ及フ處ハ版圖内ニ限リ版圖内ニ在ル人民ハ自國人ナルト他國人ナルトヲ問ハス悉ク其支配ヲ受ケ一ハ國家カ自國民ニ對シテハ如何ナル所ニ在ルモ其主權ヲ及ホスモノトスルモノ是ナリ而シテ此二原則ノ適用上一國主權ノ行使ト他國主權トヲ相容レサル場合ニ於テハ第一ノ原則ニ依リ版圖内ニ於テハ自國人ハ勿論外國人ニ對シテモ完全ノ統治權ヲ行ヒ其不動産及ヒ動産ニ付テモ自國ノ法律命令ヲ適用シ得ヘキモノタリ然レトモ自國人民及ヒ財産ニシテ版圖外ニ在ルト同時ニ他國ノ版圖内ニ在ラサル場合ニハ之ニ對シテ本國ノ主權ヲ及ホシ又他國版圖内ニ在ル場合ニ於テモ一

般ノ慣例上本國ノ主權ヲ及ホスヲ得ヘキ例外ナキニアラス左ニ之ヲ分説セシ

第一項 版圖外ニ在ル國民

國民ノ資格ハ出生選擇歸化婚姻等ノ事實ニ因リ各國內國法ノ規定ヲ以テ定ムヘキモノトス隨テ諸國々法ノ規定一致セサル場合ニ於テハ一人民ヲ二國以上ニ於テ同時ニ自國民ト看做スコトアリ若クハ何レノ國民ニモ屬セサル結果ヲ來スコトナキニアラス結果ノ實際不便ナルニ拘ラス是レ全ク諸國々法ノ差異ニ基クモノナルカ故ニ國際公法ニ於テハ此點ニ付キ如何トモスルコト能ハス隨テ此ニ之ヲ歸述スルノ必要ナシ然リ而シテ國家ハ自國民ト認メサルモノニ對シテハ他國ノ法律如何ニ拘ラス之ニ國民ノ待遇ト責任トヲ與ヘザルト同時ニ自國民ト看做スモノニ付テハ自國內ニ在ルト否トヲ問ハス國民トシテ保護シ之ニ對スル責任ヲ負擔セシメ得ヘクシテ其版圖内ニ在ル間ハ主權ヲ完全ニ及ホシ版圖外ニ在ルトキハ在留國主權ヲ侵害セサル範圍内ニ於テ之ニ對シテ自國主權ヲ行使シ得ヘク國民モ亦之ニ對スル義務ヲ負フヘキモノナリ何トナレハ國民タル分限ハ國家主權ニ對シテ絕對的服從者ノ地位ニ在ルモ

ノナルニ因リ國外ニ在ルトキト雖モ苟モ其分限ヲ失ハサル限リハ本國主權ニ服従スルノ義務ヲ免ル、能ハサルヲ以テナリ然レトモ國家ハ他國版圖内ニ於テ其主權ヲ害スヘカヲサルニ因リ其國內ニ在ル自國民ニ對シ完全ニ自國主權ヲ行フコト能ハサルコトアリ又ハ自國ノ法令ニシテ外國ニ在ル自國民ニ適用セサルモノアリ然レトモ此等ノ場合ニ於テハ國民ハ決シテ本國主權ニ服従スルノ義務ヲ免レタルニアラスシテ事實上本國主權ノ行使ヲ之ニ及ボザルニ過キス此理由ニ因リ方今文明國ニ於テハ自國民ノ外國ニ於ケル自國ニ對スル政治上ノ犯罪ヲ罰シ時トシテハ他國ニ於ケル重罪ニシテ所在國ノ之ヲ罰セサルトキ若クハ其引渡ヲ受ケサルトキハ其國民ノ歸國スルニ當リ處刑スルコト爲シ我刑法改正案第五條第六條ノ規定ニ於テモ日本國民ノ他國ニ於ケル重罪其他ノ犯罪ヲ處罰スルノ規定アリ又公海ニ於ケル他國船舶中ニ在ル自國民ニ對シテハ猶ホ他國領土内ニ在ル場合ト同シク國家ハ之ニ對シテ制限的ノ主權ヲ行使シ得ヘキコトハ次項ニ之ヲ説明スヘシ

第二項 公海中ノ船舶

公海ハ何レノ國ノ管轄ニモ屬セサルニ因リ之ヲ航行スル國家ノ軍艦其他ノ官船ハ全然本國ノ管轄ニ屬シ戰爭中交戰國ノ軍艦ハ公海ニ於テ私有船舶ヲ巡檢搜查等ノ權ヲ有スレトモ軍艦官船ニ對シテハ之ニ主權ノ行使ヲ及ボスコト能ハス故ニ其進行ヲ妨ケ障害ヲ爲スハ本國ノ主權ヲ侵犯スルノ行爲ナリトス之ニ反シテ私有船舶ハ戰時國際公法上許ス所ノ臨檢搜查等ノ例外ヲ除キ之ニ對シテ國家ハ平時及ヒ戰時ヲ問ハス其管轄權ヲ及ボシ得ヘキモノニシテ公海中ニ於ケル自國商船其他私有船舶ノ海員及ヒ乘客ハ内外人ノ別ナク其船中ノ財産ハ自國人ノ所有ナルト否トヲ問ハス之ニ對シ本國ノ主權ヲ完全ニ行使シ其行使ノ結果トシテ他國人若クハ其財産ニ付キ不當ノ損害ヲ生スルトキハ國際上ノ問題トシテ之ニ對スル國家ノ責任アルニ過キス其點ニ付キ問題ノ生シタルハ今世紀ノ初ニ當リ英佛戰爭中英國軍艦ハ米國商船中ニ在ル英國水夫ヲ公海中ニ於テ捕ヘ之ヲ軍艦ニ使用シタリ之ニ付キ英國政府ハ米船ノ英國近海ニ在リテ逃亡水夫ヲ隱匿シタルノ理由ト當時英佛戰爭中戰艦ノ必要上自國民ヲ徵收シタリトノ理由ニ因リ自國ノ行爲ノ正當ナルコトヲ主張シ遂ニ此問題ハ千

八百一十二年英米戰爭ト爲リタルモ今日ニ於テハ公海中ノ私船ハ凡テ本國ノ管轄ノミニ屬スルコト亦疑ナキニ至リ其犯罪ニ付テモ我刑法改正案第三條ニ於テ法律ハ公海ニ於タル帝國船舶内ノ犯罪及ヒ國際法上海賊ト認ムヘキ犯罪ニ適用ストノ規定アリ

茲ニ注意ヲ要スルハ我刑法改正案第三條第二項ニモ規定セル所謂海賊ナルモノ是ナリ海賊ノ名義中ニハ諸種ノ行爲ヲ含ミ又諸國內國法ニ於タル定義モ一定セサル所ナリ然レトモ各國々法ニ於テ海賊ト名クタルモノハ其國主權ノ管轄内ニ於テノミ海賊ト認ムルニ過キスシテ國際公法上海賊ト稱スルハ公海若クハ文明國版圖以外ニ於テ強力又ハ脅迫ヲ以テ掠奪ヲ爲スノ行爲ニシテ如何ナル國際公法上ノ主體モ之ニ對シテ責任ヲ負ハサルモノヲ云フ例ハ何國ニ屬スルヤ明ナラサル人民團體カ公海中ニ於テ諸國船舶ヲ掠奪シ又ハ之ニ對シテ強盜ヲ爲ストキニ當リ其海賊ヲ捕縛處刑スルニ付キ諸國ハ皆比較的他國ヨリ優等ナル地位ニ立ツ者ナク又ハ船舶ノ乘組員カ船長ヲ幽閉シ若クハ殺戮シテ其船舶ヲ奪フトキハ之ニ對シテ本國ノ權力ヲ行フコト能ハサルヲ以テ

此等ノ場合ニ於テハ各國共ニ斯ル海賊ヲ刑罰スルニ付キ共通ノ利益ヲ有シ學說並ニ列國裁判例モ海賊ヲ以テ一般ノ公敵ト看做セリ隨テ海賊ハ何レノ國モ之ヲ捕ヘ處罰スルノ權利ヲ有シ死刑ニ處スルモノトス

海賊ノ行爲ハ單ニ海上ノミニ限ラスレテ何レノ國家ニモ屬セサル土地ニ上陸シ其人民ニ對シ掠奪強盜ヲ爲スモ等シク海賊ナリトス然レトモ國家ノ領土内ニ上陸シ掠奪強盜ヲ行フハ其國ノ刑法ヲ以テ之ヲ罰スヘク他國ハ之ヲ領海ニ於テ捕縛裁判スルハ他國主權ノ侵犯ナルヲ以テ國際公法上之ヲ海賊ト看做サス又海賊ハ普通殘忍ナル強盜殺人ヲ爲シ其意ヲ滿スノ行爲ナリト雖モ必シモ盜賊ノ意思ニ出ツルノ行爲ノミニ限ラスシテ例ハハ亡國ノ人民海上ニ入り戰勝國ノ船舶又ハ人民ニ加害スル如キ場合ニ於テハ盜賊ヲ劬クノ意思ナシトスルモ其行爲ハ政治上ノ團體タル國家ノ權力ニ出テタルニアラサルヲ以テ是亦海賊ノ行爲ト看做スノ外ナシ今一例ヲ舉クレハ千八百七十七年秘魯内亂ニ於テ甲鐵艦「ヒュアスカ」號ハ叛亂者ノ手ニ入り英國商船ヨリ石炭ヲ賠償セシメテ借入レ又一英船ヲ止メ海員二名ヲ捕ヘタルニ英國太平洋艦隊司令官ハ海賊ノ

行爲トシテ砲撃シ英國政府ハ其砲撃ヲ是認セルカ如キ是ナリ要スルニ海賊ハ國家ノ命令ニ基カサル公海中ノ暴行ナリトス故ニ戰爭ニ際シテモ交戦國又ハ交戦者ノ承認ヲ得タル團體ニ屬スル軍艦ノ中立國船舶ニ對シ其權利以外ノ行爲ヲ爲シタルトキノ如キハ決シテ之ヲ海賊ノ行爲トスルコト能ハス然レトモ若シ交戦主體ノ軍艦ニシテ自國亡滅ノ後猶ホ海上掠奪又ハ戰爭ノ權利ヲ行フハ海賊ニシテ米國南北戰爭ニ於テ南軍ノ軍艦シユナンドバ號ハ「クープ」ホテソ近海ニ於テ北軍ノ商船ヲ攻撃シ居タリシカ千八百六十五年春ニ南軍ハ亡滅シタルニ拘ラス其實ヲ知ラスシテ八月二日マテ同艦ハ掠奪ヲ行ヒ十一月ニ於テ英國ニ寄航シタルニ英國法廷ハ其南軍亡滅ノ事實ヲ知ラス又之ヲ知ルノ便宜ヲ得サリシ事由ニ因リ之ヲ海賊トセスシテ赦免セルモ若シ其南軍亡滅ノ事實ヲ知リタルニ於テハ海賊トシテ罰セラルヘキハ學者中論ナキ所ナリ要スルニ國際法ノ主體ノ命令又ハ其責任ヲ取ルノ行爲ハ如何ナル海上暴行モ海賊トスルコト能ハサルコトナレトモ交戦國雙方ヨリ命令ヲ受ク兩國ノ船舶ニ妨害ヲ加フル如キハ海賊ノ行爲タルヲ免レサルナリ

ル者ニアラス直ニ天皇ニ屬シテ其主任ノ事務ヲ掌ル者ナリ閣議ニ於テ其意見容レラレサルコトアルモ天皇ハ却テ之ヲ採用セラル、コトアリ閣議ヲ經ヘキ所ノ事項ハ内閣官制第五條ニ規定セリ即チ左ノ如シ

一 法律案及ヒ豫算決算案

二 外國條約及ヒ重要ナル國際條件

三 官制又ハ規則及ヒ法律施行ニ係ル勅令

四 諸省ノ間主管權限ノ爭議

五 天皇ヨリ下付セラレ又ハ帝國議會ヨリ送致スル人民ノ請願

六 豫算外ノ支出

七 勅任官及ヒ地方長官ノ任命及ヒ進退

其他各省主任ノ事務ニシテ一般ノ行政ニ關係ヲ有シ事ノ稍重キ者ハ閣議ヲ經ヘキモノトセリ尙ホ主任大臣ハ其見ル所ニ據リテ如何ナル事件ニテモ總理大臣ニ呈出シテ閣議ヲ求ムルコトヲ得陸海軍大臣ハ事ノ軍機軍令ニ關連シ天皇ニ奏上スル所ノモノハ天皇ノ旨ニ依リテ之ヲ内閣ニ下付セラル、事件ヲ除ク

ノ外ハ陸海軍大臣ヨリ總理大臣ニ報告ス我國ノ法理トシテハ内閣ノ權限ト内閣總理大臣ノ權限トハ混同スルコトヲ許サズ總理大臣ハ合議體ノ議長タル外ニ最高等ノ監督權ヲ有ス故ニ之ニ依リテ命令ヲ發シ且内閣所屬ノ部局ハ總理大臣ノ監督ヲ受ケ即チ總理大臣カ單獨官府トシテ權限ヲ行フ總理大臣ハ此ノ如ク重大ナル權ヲ有シ自己ノ意見ニ據リ違法ノ場合ノミナラス公益上ノ理由及ヒ政略等ノ理由ヨリシテ各省大臣ノ命令處分ヲ中止セシメテ勅裁ヲ待ツコトヲ得内閣官制第三條此等ノコトヲ除キテハ總理大臣モ他ノ國務大臣モ皆平等ナリ

内閣ハ百般ノ行政ヲ統ヘテ一ニ歸セシムル所ニシテ大權ノ行動ニ至リテモ内閣ヲ經由スルモノアリ此ノ如ク内閣ハ一般行政事務ノ統一ヲ保持スル機關ナルモ場合ニ由リテハ特ニ或事件ヲ内閣ノ權限ニ屬セシメタルモノアリ

内閣ノ下ニ立ツ部局ニ二種アリ而シテ其第一ハ單ニ總理大臣ノ命令ヲ受ケテ働クモノニシテ第二ハ總理大臣ノ命令ヲ受ケ又ハ書記官長ノ指揮ニ從フモノナリ前者ハ賞勳局法制局ニシテ後者ハ恩給局統計局等はナリ

賞勳局ハ勳位及ヒ勳章年金ニ關スル事項褒賞及ヒ其他實件ニ關スル事項外國ノ勳章受領及ヒ佩用ニ關スル事項ヲ掌ル賞勳局ハ勳任ノ總裁副總裁及ヒ奏任ノ書記官ト屬トヲ以テ組織ス又右ニ述ヘタル事項ヲ議スル爲メ賞勳會議ヲ置ク

法制局ハ長官一人參事官書記官等ヲ以テ組織シ其權限ハ總理大臣ノ命令ニ依リ法律命令ノ案ヲ起草シ又法律命令ニ關シテ意見アルトキハ之ヲ内閣ニ上申シ又各省大臣ヨリ提出シタル法令案ヲ審查スル者ナリ

内閣書記官長ハ總理大臣ノ命令ヲ受ケテ秘密ノ文書ヲ掌リ内閣ノ庶務ヲ總理ス以上ノ外ニ内閣ニハ總理大臣秘書官アリ(屬官及ヒ技術官等ノ詳細ハ茲ニ略ス又法典調查會文官試験委員モ内閣ニ屬ス)

第三節 各省大臣

全國ヲ分チ各地方ヲシテ自治セシムル制度ハ地方制ノ組織ニシテ事務ノ性質ニ由リ管轄ヲ分ツモノ、中央制ナリ是等ニ關シテハ既ニ述ヘタリ各省ハ即チ事務ノ分配ニシテ此事務ニ付テ責任ヲ有スル者ハ各省大臣ナリ事務ノ分配ハ

官制ニ依ルモノニシテ主トシテ大權ノ作用ナリ職權ノ主體ハ各省ニアラス各省大臣ナリ何トナレハ各省ハ大臣ノ事務所ニシテ其事務員ハ大臣補助ノ官吏タルニ止マル各省大臣ハ單獨ノ官府タリ而シテ其權限ハ概括的ノモノニシテ列舉的ノモノニアラス官制ニ於テ局及ヒ課ニ細別セラレアルモ精神ハ概括的ノモノナリ例ヘハ大藏ト曰ヒ内務ト曰フカ如ク一般ニ事務ノ性質ヲ示スモノニシテ其中ニ於テ伸縮シテ大臣之ヲ行フコトヲ得故ニ法律命令ハ各省大臣ニ侵スヘカラサルノ限界ヲ示シ官制ハ專ラ管理事務ノ性質ヲ示スモノナリ各省大臣ハ大權ノ委任ニ依リ其主任ノ事務ニ付キ亦特別ニ省令ヲ發スルコトヲ得省令ノ目的ハ法令ヲ執行スル爲メ又ハ安寧秩序ノ維持幸福増進ノ爲ニスルモノナリ法令ヲ執行スル爲メトハ法令ヲ補充スルコトヲ包含ス安寧秩序ノ維持トハ廣義ノ警察命令ナリ但現行法ニ於クル警察自體ハ内務行政ノ一部ニ屬ス

各省大臣ハ其下級行政官廳ニ對シテ訓令及ヒ監督ノ權アリ又主任ノ事務ニ付テ警視總監北海道長官府縣知事ノ命令又ハ處分カ法規ニ違ヒ公益ヲ害シ權限

ヲ侵スモノアリト認メタルトキハ之ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得此ノ如ク各省大臣ハ主任ノ事務ニ付キ地方長官ヲ監督スレトモ地方長官ノ一般ノ監督ハ内務ニ屬ス例ヘハ官吏ノ進退ノ如キニ至リテハ各省大臣ハ容喩セス

又各省大臣ハ其部下ヲ監督シテ奏任官ハ總理大臣ヲ經テ上奏ノ上進退シ列任以下ノ進退ハ之ヲ專行ス又官吏ノ叙位叙勳モ總理大臣ヲ經テ上奏ス地方官廳奏任官ノ進退ハ内務大臣ヨリ總理大臣ヲ經テ上奏シ地方官廳官吏ノ叙位叙勳モ亦同一手續ナリ

各省ニハ大臣官房ヲ置キ秘密ニ屬スル事項官吏ノ身分進退ニ關スル事官印省印ノ監守ニ關スル事法文書類ニ關スル事統計報告ノ事其省ノ經費ニ關スル事財產物品ニ關スル事ヲ掌ル

各省ニ次官一人ヲ置ク次官ハ勅任ニシテ大臣ヲ補佐シ省務ヲ整理シ各局部ノ庶務ヲ監督ス大臣事故アルトキハ次官ヲシテ代理セシムルコトアリ但法律勅令ニ副署シ省務ヲ上奏シ内閣ノ議ニ列シ省令ヲ發スルコトヲ得ス

内閣官制第九條ニ依レハ一般事務ヲ大臣ニ代ハリテ處理スルハ他ノ大臣力兼

任シ又ハ勅令ニ依リテ管理スル場合ニ在リ改正官制ニ依リ各省ニ參與官各一人ヲ置ク又局長ヲ置ク局長ハ其局ノ主管ノ事務ヲ掌リ大臣次官ノ命ヲ受ク又各省ニ參事官ヲ置ク參事官ハ大臣次官ノ命ヲ受ク審議立案ヲ掌リ又便宜局又ハ課ニ兼務シテ其事務ヲ補ク陸海軍省ニ參事官ナシ又各省ニ書記官ヲ置ク書記官ハ大臣官房ノ事務ヲ掌リ且部局ノ事務ヲ補助スル者ナリ陸海軍ニナシ此二者ハ合セテ八人以下トス但内務大藏ハ十二人以下ナリ又各省ニ秘書官ヲ置ク秘書官ハ大臣ノ命ヲ受ク秘密ノ事務ヲ掌リ臨時ニ局及ヒ課ノ事務ヲ補クル者ナリ要スルニ各省大臣ハ行政ノ中心タル者ニシテ内閣ノ如キハ政務ノ統一ヲ爲スモ自ラ事ニ當ルコト少ナシ

以上ハ通則ナリ是ヨリ各省ニ涉リ其大畧ヲ述ヘン

我國現在ノ省數ハ九個アリ外務、内務、大藏、陸軍、海軍、文部、司法、農商務、逓信是ナリ

第一 外務省

外務大臣ノ事務ハ二ツニ分ル一ハ外國ニ關スル政務ノ施行ニシテ一ハ外國ニ於ケル商事ノ保護ナリ前者ノ機關ハ外交官ニシテ後者ハ領事官ナリ

外務大臣官房ニ於テハ通則ニ述ヘタル外ニ帝國ニ駐在スル外國ノ外交官、領事官、外國人ノ勸導、條約書ノ保管及ヒ文書ノ翻譯ニ關スル事務ヲ掌ル局ヲ分チテ二トス政務局及ヒ通商局是ナリ前者ハ外交ノ事ヲ掌リ後者ハ通商、航海及ヒ移民ニ關スル事務ヲ掌ル

第二 内務省

内務ノ事務ハ頗ル繁雜ナルモノニシテ他ノ官省ニ屬セサル事務ハ總テ此ニ集ムルヲ各國ノ例トス

内務大臣ハ地方行政ニ關スル事、警察、土木、衛生、地理、社寺、出版、版權ノ事、賑恤及ヒ救濟ニ關スル事、監獄ニ關スル事務ヲ掌ル
大臣官房ニ於テハ通則ニ述ヘタル外、實ニ關スル事務ヲ掌ル
局ヲ分チテ地方局、警保局、土木局、衛生局、社寺局ノ五ト爲ス
地方局ニ於テハ地方行政ニ關スル事項、議員ノ選舉、賑恤、救濟ノ事務、官有地ニ關スル事務、徴兵、徴發等ニ關スル事務ヲ掌ル
警保局ハ警察、監獄ニ關スルコト、圖書出版、版權登錄ニ關スルコトヲ掌ル

土木局ハ土木ニ關スル事ノ外土木收用ニ關スル事ヲ掌ル
衛生社寺ノ二局ハ別ニ述フルノ要ナシ

第三 大藏省

大藏省ハ政府ノ財務ヲ總括シテ會計出納租稅國債貨幣預金保管物及ヒ銀行ニ關スル事務ヲ掌ル而シテ公共團體ノ財務ヲ監督ス
大臣官房ニ於テハ通則ニ述ヘタル外ニ銀行貨幣保護鐵道會社ノ會計監督印紙類ノ出納保管ヲ掌ル

局ヲ分チテ主計局主稅局理財局ノ三トス

主計局ハ出納及ヒ計算ノ事ヲ掌リ主稅局ハ國稅及ヒ公共團體ノ收入ニ關スル事項ヲ掌ル其他ハ理財局ニ於テ之ヲ掌ルモノトス

第三 陸軍省及ヒ海軍省

陸海軍大臣ハ陸海軍々政ヲ管理シ軍人軍屬ヲ總督ス茲ニ一言スヘキハ陸海軍ニ於テハ軍ノ行政ト云フコトハ天皇ノ大元帥タル資格ヨリ生スル事項ト區別セサルヘカラサルコト是ナリ

陸海軍兩省ニ於テ掌ル所ハ専ラ行政ニ關スルコトニシテ其他ノ事ハ陸軍省ニ參謀本部海軍省ニ軍令部アリテ天皇ニ直轄シテ大權事務ヲ補ク
陸軍省ハ局ヲ分チテ軍務局經理局醫務局法官部ト爲ス
軍務局ハ一般軍事行政ヲ掌リ經理局ハ會計及ヒ物品供給ノ事ヲ掌ル法官部ハ軍事司法ニ關スルコトヲ掌ル(醫務局ハ述フルノ要ナシ)

海軍省ハ局ヲ分チテ軍務局經理局ノ二ト爲ス其權限ハ陸軍ト同シ

第五 司法省

司法省ハ檢察事務ヲ指揮シテ恩赦復權ニ關スル事項ヲ掌リ其他諸般ノ司法行政ヲ掌ル民刑局ヲ置キテ一般民事刑事ニ關スルコト恩赦復權ノ事ヲ掌ル
大臣官房ニ於テハ通則ノ外ニ裁判所ノ設立廢止及ヒ管轄區域ニ關スル事ヲ掌リ又裁判所附屬ノ吏員及ヒ辯護士ノ身分ニ關スルコトヲ掌ル

第六 文部省

文部大臣ハ教育及ヒ學問ニ關スル事務ヲ管理ス官房ニ於テハ通則ノ外公立學校職員ノ身分其他教員ニ關スルコト及ヒ教科用ノ圖書ニ關スルコトヲ掌ル

局ヲ分チテ専門學務局普通學務局ノ二ト爲ス
第七 農商務省
農商務大臣ハ農商工水産林野鑛山發明意匠商標及ヒ地質ニ關スルコトヲ掌ル
大臣官房ニ於テハ通則ノ外ニ内外海覽會及ヒ褒賞ノ事ヲ掌ル

局ヲ分チテ農務局商工局山林局鑛山局特許局等トス
第八 遞信省
遞信大臣ハ鐵道郵便電信船舶海員航路及ヒ航路ノ標識及ヒ郵便爲替及ヒ貯金

ニ關スル事務ヲ管理シ又水陸ノ運輸及ヒ電氣事業ヲ監督ス
局ヲ分チテ鐵道局通信局管船局ト爲ス

第四節 府縣知事

府縣ニ知事ヲ置キ北海道ハ長官ヲ置ク長官ノ職權ハ知事ノ職權ニ準スルモノ
ナリ但知事ノ中ニ東京府知事ハ其職權他ノ知事ヨリ狹シ即チ別ニ內務大臣ニ
局スル警視總監アリテ警察ノ事ヲ掌ル故ニ此二者ヲ合併シテ普通知事ノ職權
ト爲ルモノナリ

府縣ハ地方團體タルト同時ニ中央行政區畫ナリ故ニ知事ハ二ツノ方面ヨリ觀
察セサルヘカラス一ハ團體行政ノ機關トシテ府縣ヲ代表スル權限ニシテ他ノ
一ハ中央官府トシテ中央行政ヲ行フモノナリ而シテ前者ハ法律ヲ以テ之ヲ定
メ後者ハ官制ニ依ル茲ニ説明スルハ中央行政ノ官府トシテノ職權ナリ知事ハ
各省大臣ノ訓令監督ヲ受ケテ法令ヲ施行シ其管轄内ノ行政事務ヲ總理スルモ
ノナリ其權限ハ地方的ノモノニシテ府縣ハ其區畫ナリ此ノ如ク中央行政ハ總
テ知事ヲ經由スルニ因リ其事務ハ繁雜ナリ警察ノ事公益ニ關スル事財政ニ關
スル事軍事ニ關スル事等之ヲ掌ル內務大臣ハ知事ノ職務ヲ全部ニ付テ監督
シ其他ノ各省大臣ハ所管ノ事務ノミニ付テ監督ス然レトモ知事ハ內務及ハ各
省大臣カ地方ニ派遣シタル補助ノ事務官ト其性質ヲ異ニス大臣ノ直接下級ニ
在ル官府ニシテ自己ノ名ヲ以テ自己ノ責任ニ於テ行政權ヲ行フ主体ナリ
各省大臣カ直接ニ自己ニ屬スル事務官ヲ派遣シテ行政ヲ爲ス事ハ知事ノ權限
ヲ侵害スルコトハナルカ故ニ特ニ官制ニ規定シタルモノハ外爲スコトヲ得ス
ト信ス知事ハ行政處分ノ權ト行政規則ヲ發布スル權トヲ有ス知事ノ命令ハ之

ヲ府縣令ト名ク知事ハ法律命令及ヒ上級官府ノ訓令ノ範圍内ニ於テ行政ノ口
的ノ爲メニ此命令ヲ發ス府縣令ニハ十圓以下ノ罰金及ヒ留拘ヲ趣メサル罰ヲ
附スルコトヲ得各省大臣ハ違法又ハ公益ニ害アルノ點ヨリシテ府縣令ヲ取消
シ又ハ中止スルコトヲ得取消ノ効果ハ一般ニ述ヘタル所ト異ナルコトナ
シ
知事ハ上ニ於テ大臣ノ監督ヲ受クルト同シク下部長又ハ島司ニ對シテ訓令ヲ
發シ其監督ヲ爲ス又官制ニ依リテ知事ハ行政事務ノ二部ヲ部長又ハ島司ニ委
任スルコトヲ得此委任ハ補助機關トシテ事務ヲ執行セシムルニアラス官制上
自己ノ權限ヲ部長又ハ島司ニ移スコトヲ得ルナリ地方官令制第九條ニ依レハ
知事ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警護ノ爲メニ兵備ヲ要スルトキ
ハ師團長又ハ旅團長ニ移駐シテ出兵ヲ請フコトヲ得即チ非常ノ場合ニ秩序ヲ
維持スル目的ノ爲メニ此強大ナル權ヲ有セリ此權ハ國法ノ精神ヨリスレハ各
地方ニ於テ中央トノ交通絶ニ緊急止ムヲ得サル場合ニ備フル所ノ例外ノ規定
ナリト信ス然レトモ法文上ハ知事ノ見解ニ一任シ一般ニ廣ク許シタルモノハ

如シ故ニ知事ハ其必要ヲ內務大臣ニ上申スルコトヲ要セス師團長ハ其理由ヲ
訊フコトヲ得ス此ノ如キハ行政ノ統一ノ精神ニ矛盾スルモノニ非スヤ頗ル疑
問ナリ抑モ兵力ヲ動カスコトハ可成避クヘキ所ノモノニシテ若シ行政警察ノ
權ヲ以テ秩序ノ維持ヲ爲ス能ハサルトキハ天皇ノ大權ニ依リ兵力ヲ動カスコト
國法ノ精神ナリ憲法上軍ノ統帥宣戰及ヒ戒嚴宣告ハ總テ天皇ノ大權タリ然ル
ニ行政官廳而モ下級官府タル知事カ戰鬪力ヲ動カスコトヲ得ルハ立法論トシ
テ疑アル所ナリ從來各地ノ交通不便ニシテ地方分立ノ傾向アル時代ニ於テハ
或ハ斯ル必要モアリシナラシ然レトモ今日ニ在テハ其必要ナシト信ス故ニ此
法文ヲ解スルニハ止ムヲ得サル場合ニ限ルコトトシテ極メテ制限のニ解スル
ハ至當ノコトト考フ
府縣ニハ知事ノ外ニ書記官警部長參事官典獄等ヲ置ク
知事ノ官房ハ官吏ノ進退及ヒ身分ニ關スル事項文書ノ往復ニ關スル事項官印
縣印ノ管守ヲ掌ル
府縣ニ於テハ事務ヨリ部署ヲ設ク詳細ハ之ヲ略ス

郡長ヲ置キ郡長ハ郡ニ於ケル中央行政ヲ管理スル官府ナリ而シテ知事ノ直接下級ニ立ツモノナリ郡長ハ又自治行政ノ機關トシテ法律ノ規定スル所ナルモノ一方ニ於テハ自己ノ責任ヲ以テ中央行政ヲ行フ權限ヲ有ス而シテ其中ニ自己ノ權限ト知事ヲ委任ニ依ル權限トアリ地方官々制第四十四條ニ郡長ハ法律命令ニ依リ若クハ知事ヨリ委任セラレタル事件ニ付キ郡令ヲ發スルコトヲ得トアリ

元來郡長ハ知事ト市町村トノ間ニ立テテ知事ノ命令ヲ媒介スルコト其主タル職分ナリ地方ニ於ケル中央行政ハ知事カ中心點ト爲リテ動作スルコト國法ノ精神ナリ佛國ノ如キハ知事カ重大ナル權ヲ有シ殆ト行政全部ノ中心點ト爲レリ大臣ノ如キハ實際人民ニ對シテ直接ニ命令處分ヲ爲サス知事ニ對シテ訓令ヲ出シ知事ハ自己ノ名義ヲ以テ命令處分スルモノナリ又其下級官府タル郡長モ知事ノ命令ノ取次ニ止マレリ我國ノ行政法ニ於テハ全國行政ノ中心ハ大臣ニシテ各地方ノ行政ノ中心ハ知事ナリ然レトモ法律ハ尙ホ郡長カ自己ノ權限

トシテ命令ヲ發スルコトヲ認メタリ

知事ノ委任ト云フハ事實上ノ委任ニアラス即チ知事ノ事務ノ補助ニアラス官制ノ上ヨリ分任ヲ認メ郡長ノ職權トシテ委任スルモノナリ然レトモ一方ヨリ見ルトキハ郡長ノ職權ハ甚タ狭キモノニシテ郡カ獨立シテ爲シ得ルコトハ多クハ自治體トシテノ職權ニ歸ス故ニ官制第四十四條ハ概括的ニ郡長カ命令ヲ發スル權ヲ認メタル如キモ本則トシテハ地方ニ於ケル命令權ハ知事ニ在リ特ニ定メラレタル場合ニ郡長カ命令ヲ發スルモノナリ

郡長ハ知事ト同シク單獨官府ニシテ其權限ハ一人ニ屬ス郡ノ内部ニ於ケル町村長ヲ指揮監督シテ中央行政ノ執行ヲ爲サシム郡長ノ外ニ島司ナル者アリ島司ノ職權ハ郡長ニ準シテ解シ得ヘキナリ

以上ヲ以テ中央行政官府ノ大要ヲ陳述セリ歸スル所上級下級監督權ノ作用ヲ知レハ明瞭ナリ

郡長ノ下ニ町村長アリ是レ亦中央行政ヲ行ヘトモ町村長ハ專ラ自治體ノ機關ニシテ中央行政ノ官府ニ屬ス其中央行政ヲ行フ所以ハ自己ノ權限トシテ行

フモノニアラスシテ所謂補助機關トシテ行フモノナリ故ニ茲ニ説明セス
 第三章 地方自治ノ團體

公共團體ヲ分チテ地方自治團體ト公ノ組合體トノ二ト爲ス以下順次説明セシ
 地方團體ハ一定ノ土地ト住民トニ依リ組織セリ而シテ此地方ノ公同ノ事務ヲ
 自治スル團體ナリ既ニ第一章第四節ニ陳述シタル如ク此團體ハ自己ノ利益ノ
 爲メニ自己ノ權利トシテ行政ヲ爲スモノナリ然レトモ國家ノ方面ヨリスレハ
 其行政ハ國家ノ行政ニシテ國家ノ權限ヲ行フモノナリ自治ト云フコトハ我國
 ニモ古昔ヨリ存在セリ例ヘハ一家一族ノ如シ又其後起リタル五人組ノ制度ノ
 如キ是ナリ維新ニ至リ統一ノ政ヲ執リタル爲メ自治ヲ認メス地方ノ官吏ハ曾
 政府ノ官吏ナリシカ近時ニ至リテ更ニ自治制ヲ施キテ名義ヲ明カニセリ歐洲
 ニ於ケル自治ノ制度モ其來ルヤ遠シクナイスト氏ハ英國ノ地方制度ヲ取調タ
 ル結果ニ於テ英國ノ自治制ヲ研究シタル結果其特色ヲ示シタルモノニシテ之
 ト云ヘリ是レ英國ノ自治制ヲ研究シタル結果其特色ヲ示シタルモノニシテ之

病休業ニ至ラシメサル者ハ輕罪ノ輕キ刑ヲ以テ罰シ又創傷シテ二十日以上ノ
 病休業ニ至ラシメタル者ハ輕罪ノ重キ刑ヲ以テ罰シ若シ夫レ人ノ一目ヲ瞎
 シ四肢ヲ折リ其他癰疽瘰癧ニ致シタル者ハ重罪ノ刑ヲ以テ罰シ殊ニ死ニ致シタ
 ル者ハ更ニ重キ刑ヲ以テ罰ストノ規定ヲ設ケタリ是等ノ規定ハ全ク被害者ノ
 損害ノ程度ヲ標準トシテ罪ノ輕重ヲ定メタルモノニシテ其主旨殆ト古代ノ
 復讐主義ヲ探リタルモノト謂ハサルヲ得ス然レトモ現行刑法ハ又常ニ此主義
 ヲ探リ此主義ニ依リテ以テ罪ノ輕重ヲ定ムルコトヲ欲セス或場合ニ於テハ被
 害者ノ損害ノ程度ハ全ク之ヲ顧ミスシテ社會一般ノ危害ノ程度ヲ以テ罪ノ輕
 重ヲ定ムルノ標準ト爲セル規定アリ例ヘハ未遂犯ノ知キ是ナリ未遂犯ハ後ニ
 至リ詳ニ研究スヘキ問題ナルヲ以テ茲ニ深ク説明スルコトヲ爲サハルモ要ス
 ルニ未遂犯ナルモノハ被害者ノ損害ノ程度ヲ標準トシテ之ヲ規定シタルモノ
 ニ非ス被害者ハ犯罪ニ因リテ何等ノ損害ヲ受ルコトナキ場合ニ於テモ亦之
 ヲ罰スルコトヲ得ル規定ナルヲ以テ其被害者ノ損害ノ程度ヲ顧ミサルモノナ
 ルコトハ多辯ヲ要セス例ヘハ短銃ヲ執テ人ヲ狙撃シタルニ誤テ命中セサル場

合ニ於テ殺人未遂罪ナルコトハ何人モ疑フ容レサル所ナリ然ルニ被害者ヲ關
ミレハ何ノ自傷モナク何等ノ損害モナシ又一步ヲ進メテ被害者ハ此罪ニ因
リテ自傷セリト假定セヨ此場合ニ於テモ刑法ハ殺人未遂罪ヲ以テ之ヲ論スル
ナリ然レトモ被害者ハ死セズ僅ニ自傷スルノミ若シ夫レ損害ノ程度ヲ以テ罪
ノ輕重ヲ定ムルノ原則ヲ貫徹セハ被害者カ微傷ヲモ負ハサル場合ニ於テ殺人
未遂罪ナリトシテ其刑ヲ科スルノ理由ナシ又被害者カ僅ニ自傷シタル場合ニ
於テモ殺人未遂罪ヲ以テ罰スルノ理由ナシ然ラハ則テ現行刑法ハ或ハ被害者
ノ損害ノ程度ヲ標準トシテ罪ノ輕重ヲ定ムルコトアリ或ハ社會ノ危害ノ程度
ヲ標準トシテ罪ノ輕重ヲ定ムルコトアリ到底一原則ヲ以テ刑法全部ノ規定ヲ
支配セルモノニ非サルコトハ之ヲ知ルニ難カラス
此故ニ現行刑法ハ重罪輕罪ノ區別ヲ爲スニ方リテ必スシモ被害者ノ損害ノ輕
重ヲ標準トセシモノニ非ス又必スシモ社會ノ危害ノ輕重ヲ標準トセシモノニ
非ス然ラハ則チ第三ノ假想ニ依ル歟
(三) 犯罪ニ二種アリ或ハ被害者ノ告訴ヲ俟タズシテ其公訴ヲ提起スル犯罪

アリ或ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ俟テ始メテ其公訴ヲ提起スル犯罪
此被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ俟テ公訴ヲ提起スルニ屬スル犯罪ヲ名ク
テ親告罪ト曰フ親告罪ハ如何ナル場合ニ於テモ被害者又ハ其親屬ノ告訴ナキ
ニ於テハ縱令檢事又ハ警察官ニ於テ犯罪アルコトヲ目撃スルモ自ラ進メテ之
カ公訴ヲ提起スルコトヲ得サルモノナリ故ニ親告罪ノ種類ニ屬スル犯罪ハ全
ク一個人ノ私權ニ屬スル犯罪ナリト看做スヘキモノナリ一個人ハ其私權ニ付
キ之ヲ處分スルノ權利アリ自己ノ財產ハ之ヲ賣却シ拋棄シ又ハ毀壞スルコト
ヲ得テ何人ヨリモ之ニ干渉ヲ受クルコトナシ又人ニ對シテ債權ヲ有スル者ハ其
債權ヲ請求スルコト然ラサルトハ理由ナシ何人モ之ニ干渉スルコトナシ而シテ親
告罪モ亦殆ト此私權ノ執行ト異ナル所ナキナリ被害者ニ於テ犯罪トシテ之ヲ
罰セザルニ欲セハ之ヲ告訴スヘシ之ヲ罰スルコトヲ欲セザレハ之ヲ告訴セザルハ
即チ之ヲ告訴スルコト否トハ一ニ被害者ノ一身ニ專屬シテ何人モ此被害者ノ
權利ヲ動かスコトヲ得ズ而シテ被害者ノ告訴ナシハ檢事モ亦公訴ヲ提起シ
得ストモ被害者ハ此犯罪ニ付テ殆ト刑罰權ヲ有スト謂フモ不可ナリトス故

ニ報告罪ノ種類ニ屬スル犯罪ハ若シ英法ノ諸國假リテ之ヲ説明スルコトヲ許サハ之ヲ名クテ私罪ト曰フモ可ナラシ其他ノ犯罪ハ之ニ反シ總テ社會ノ公益ヲ害スル性質ヲ有スルモノナリト看做サレタル所ゾモノナルカ故ニ社會ハ檢事ト稱スル原告官ヲ設ケテ進テ此犯罪ヲ訴ヘ之ヲ罰セリコトヲ欲ス檢事力之ヲ訴アルノ權限ヲ有スルハ是レ社會一般ニ代リテ訴ノ權利ヲ行フモノナルカ故ニ檢事力犯罪ニ對シテ起ス所ノ訴ハ之ヲ名クテ公訴ト曰フ蓋シ檢事ノ訴ハ檢事一個人ノ訴ニ非スシテ社會一般ノ代表者トシテ起ス訴ナレハナリ私ノ訴ニ非スシテ公ノ訴ナレハナリ夫レ報告罪ハ一個人ノ私益ヲ保護スルカ爲メニ之ヲ設ケ其ノ他ノ犯罪ハ社會ノ公益ヲ保護スル爲メニ之ヲ設ケタルモノトスレハ一個人ノ私益ハ小ニシテ社會ノ公益ハ大ナルヲ以テ一個人ノ私益ニ關スル犯罪ハ其性質ノ如何ニ拘ハラズ盡ク之ヲ以テ輕罪ナリト爲スコトヲ得ヘク而シテ社會ノ公益ニ關スル犯罪ハ亦其性質ノ如何ニ拘ハラズ盡ク之ヲ以テ重罪ナリト爲スコトヲ得ヘキナリ然ルニ現行刑法ノ規定ヲ見レハ報告罪タル犯罪ニモ輕罪アリ重罪アリ例ヘハ強姦罪ハ報告罪ナルモ之ヲ罰スルニ重罪ノ刑ヲ

以テス而シテ其他ノ犯罪中ニモ亦重罪アリ輕罪アリ是ニ於テ平現行刑法ハ公益ノ犯罪ト私益ノ犯罪トヲ標準トシテ重罪輕罪ノ區別ヲ爲シタルモノニ非スト斷言シテ不可ナルヲ見ス
論シテ茲ニ至レハ現行刑法ハ第一ノ假想ニ據リシモノニ非ス第二ノ假想ニ據リシモノニ非ス又第三ノ假想ニ據リシモノニ非ス果シテ然ラハ現行刑法ノ區別ハ如何ナル標準ニ據リシモノナルヤ予輩力想像ノ及フ所ニ非ス故ニ刑法ノ理論上現行刑法ノ區別ハ何等ノ根據ナキ區別ナリト明言スルモ決シテ不當ニ非サルヘシ

第二 實際上ヨリ論スルモ亦此區別ノ無益ナルコトヲ主張スルヲ得ヘシ蓋シ無益ナルモノミナラズ却テ害ト爲ルヘキ場合アリ蓋シ現行刑法力重罪ト輕罪トヲ區別スルノ目的ハ重罪ニ對シテハ重罪ノ刑ヲ科シ輕罪ニ對シテハ輕罪ノ刑ヲ科セリト欲スルニ在リ即チ重罪ニハ重キ刑ヲ科シテ犯人ノ苦痛ヲ多クシ且長クセリト欲シ輕罪ニハ輕キ刑ヲ科シテ犯人ノ苦痛ヲ少クシ且短クセリト欲スルニ在リ故ニ重罪ノ刑ト云ヒ輕罪ノ刑ト云フモ其執行ノ方法ニ於テ苦痛ノ

程度ヲ異ニスルニ非サレハ其區別モ亦全ク徒法ト曰ハズ今現行刑法ノ規定ヲ見ルモ重罪ノ主刑ハ第七條ニ規定ス其數九種アリ輕罪ノ主刑ハ第八條ニ規定ス其數三種アリ第七條ニ於ケル九種ノ刑ニ付テハ一々其執行方法ノ規定アリ死刑ノ執行方法ニ付テハ姑ク措テ之ヲ論セス無期徒刑以下ニ付テ其執行方法ノ如何ヲ見ル第十七條ニ徒刑ハ無期有期ヲ分ク島地ニ發遣シ定役ニ服ス……トアリ監獄則ハ果シテ此規定ニ基キ實際島地ニ發遣スルカ現行監獄則ハ監獄ヲ大別シテ二種ト爲シ十年以上ノ囚徒ヲ置クヘキ監獄ヲ集治監ト曰ヒ其數全國ニ五ヶ所アリ又十年以下ノ囚徒ヲ置クヘキ監獄ヲ地方監獄ト曰ヒ其數各府縣ニ付キ一ヶ所ナリ而シテ其他ニ於テ徒刑囚ヲ發遣スヘキ島地ノ監獄ナルモノ無シ往時ハ八丈島小笠原島ニ囚徒ヲ發遣セシコトアリシモ是等ノ島地ハ近來文化大ニ開ク復囚徒ヲ發遣スルニ適セス故ニ刑法ノ規定ハ全ク徒法ト爲リ了レリ是レ管ニ徒刑ニ於テノミ然ルニ非ス流刑禁獄等國事犯ニ關スル刑ノ執行ハ舊ク之ヲ除クトスルモ重懲役輕懲役ノ執行方法モ亦刑法ニ規定スル所ノモノニ同シカラス實際ニ於ケル執行方法ヲ觀レハ唯拘禁ノ

場所ヲ異ニスル其期間ノ長短ヲ異ニスルモ止マリ決シテ多種ノ執行方法アルニ非サルナリ且夫レ重罪ノ刑ト輕罪ノ刑ハ其名稱ニ於テモ異ナレハ又其性質ニ於テモ亦異ナリ重罪刑ノ最モ輕キハ輕懲役ニシテ輕罪刑ノ最モ重キハ重禁錮タリ現行刑法ノ規定ニ依レハ二者ノ執行方法ハ全ク之ヲ異ニセサルヘカラス第二十二條ニ懲役ハ内地ノ懲役場ニ入レ定役ニ服ス……トアリ而シテ第二十四條ニ禁錮ハ禁錮場ニ留置シ重禁錮ハ定役ニ服ス……トアリ此法文ニ依レハ懲役囚ハ懲役場ニ禁錮囚ハ禁錮場ニ入ルヘキモノニシテ留置ノ場所相異ナラサルヘカラス然ルニ其實ヲ見レハ二者共ニ同シク地方監獄ニ留置スルニ過キス殊ニ其服役ノ方法モ亦二者殆ント共通ノモノタリ故ニ二者ハ其名稱ニ於テ異ナル所アリト雖モ實際ハ全ク同一ナリ諸君或ハ曰ハム懲役ハ刑期長ク六年以上十一年以下ニ禁錮ハ刑期短ク十ヶ月以上五年以下ナリ刑期ノ長短大ニ異ナルニ非スヤト然レモ是亦必スシモ然ラサルナリ懲役ノ最モ輕キハ六年ニシテ而シテ禁錮ノ最モ重キハ七年ニ至ルヲ得第七十條即チ重罪ノ刑ハ輕クシテ輕罪ノ刑ハ却テ重キコトアリ此ノ如キ奇觀ヲ呈スルモノ仍チ重

罪輕罪重區別スルハ必要アリト爲ス。此區別ノ必要ヲキニ益明確ナリト謂フヘシ更ニ一歩ヲ進メテ之ヲ論スレハ重罪ト輕罪トヲ區別セルカ爲メ實際上海不權衡ナル刑罰ヲ科セザルヲ得ザル集合ヲ生スルコトアリ。現行刑註ノ規定ニ依レハ社會ノ危害ノ小ナル場合ニ於テ却テ重キ重罪ノ刑ヲ科セザルヘカヲナル場合アリ又社會ノ危害ノ大ナル場合ニ於テ却テ輕キ輕罪ノ刑ヲ科セザルヘカヲナル場合アリ此ノ如キ結果ヲ生スルハ畢竟重罪輕罪ヲ區別シタルニ原由セズ。ハ非ス今簡單ニ重罪輕罪ノ區別ヨリ生スル弊害ニ付キ一言セシニ重罪犯ニシテ實際重罪ノ刑ヲ科スルニ足ラザルモノアリ又輕罪犯ニシテ實際輕罪ノ刑ヲ科スルハ輕キニ失スルモノアリ例ヘハ官文書ノ一文字ヲ變造スル行爲ト十萬圓ノ借用證書ヲ偽造スル行爲トハ其情ニ於テ前者ノ輕クシテ後者ノ重キヲ知ル然レトモ今日ノ刑法ニ於テハ前者ハ重罪ノ刑ニ處セラレザルヘカヲズシテ而シテ後者ハ輕罪ノ刑ニ處セラレハ以テ足レリトス又半錢銅貨ヲ變造シテ二十錢銀貨ト爲スノ所爲ト詐欺賭博ノ方法ヲ以テ數千圓ノ財物ヲ騙取スルノ所爲ハ其情ニ於テ前者ハ輕クシテ後者ハ重キナリ然レトモ刑法ハ前

萬國平和問題ニ就テ

(三月廿六日本校講議會ニ於テ)

法學博士 寺 尾 亨 講演

本校速記者 築 速記

私ハ萬國平和問題ニ就テト云フ題ヲ掲クテ置キマシタ是ハ諸君力御承知ノ如ク昨年ノ八月中ニ露西亞皇帝ノ趣意ヲ承クテ露西亞ノ政府カラ萬國會議ヲ招集スルト云フヤウナコトカコサリマシタ其問題自身テハコサリマセスカ之カ除露萬國平和ト云フ一休ノ廣イ問題ニ關係ヲ持ツテ居ルノテコサイマスカラ此平和問題ノ沿革ニ付キマシテ昨年ノ十二月中ニ國家學會ヲ講演テ致シマシタコトカコサイマス是ハ單ニ此問題ノ是マテニ至リマシタ經過ノ大略ヲ述ヘマシタマダ其現在ノ有様ヲ將來ノ點ニ付キマシテ述ヘル暇カコサリマセヌテ

コサリヤシタカヲ實ハ今日ハ此現在何ゾオモノニナリテ居ルカ將來如何ニ成
行クモオモテアラユカト云フ點ハ少シ述ヘル積テコサリヤス
然ルニ唯今述ヘマシタ如ク露西亞ノ發議カ尙ホ進ミマシテ昨年ノ十二月三十日
即チ露西亞ノ曆テコサリヤマスカラ日本テハ一月何日ト云フ日ニ夏ニ第二ノ週
文カ出マシテ之カ外交時報ニ既ニ譯シテ出テ居リマス、其中ノ一箇條ハ即チ此
平和問題ニ最モ關係カアルノデコサリヤマスカラ本題ニ入リマス前ニ此露西亞
ノ週文ニ付テ少シク述ヘヤウト思ヒマス、最初ノ申出ハ先主モ三點テア
タノテ、現今ノ兵備カ殊ニ甚シクシテ國民ハ之カ爲メニ全ク盡瘁シテ努力ヲ費
シ財産モ擲ツヤウナ有様デアルカラ一ツニハ之ヲ減シヤウト云フ考又今一ツ
ニハ今日マテ此ノ如ク兵備ヲ増サナクレハナラヌト云フ如キ有様ニナラテ居
ル其原動力ヲ減シヤウトカ撤去シテ仕舞ハセトカ云フコト又此等ノ兵備ヲ減ス
ルト云フヤウナコトヲシマスレハ何レモ國際關係ハ個人ノ關係ト同シコトデ
紛議ノ生スルコトハ當リ前テコサリヤマスカラ之ヲ平和的ニ終局ヲシナクレハ
ナラス即チ何カノ方法テアル何カノ方法ト云ヘハ法律的二此問題ヲ決スルト

云ラマテアル法律的二決スルト申シマスルト從來學者カ類ニ述ベテ居リヤシ
タ如ク仲裁ト云フ方法ニ執ラナクレハナラヌ若クハ純然タル裁判所ト云フヤ
ウチコトニ爲サナクレハナラヌコトコサリヤス、此等ノ點テコサリヤシタノテ
殊ニ初ノ申出ノ中ニアル總テ平和ヲ害スル原動力ヲ除クヤウト云ウヤウナ
トニ付テハ少シ問題カムツカシクナル

此露西亞ノ申出カアリマシテカ第一ニ佛蘭西ノ如キハ先ツ初ニ今マテ踏
テ居ル問題ヲ決シナクレハナラヌ、二口ニ言ヘハ「アルザス」リレーヌヲ取返
シタ後テナクレハ撤兵ハ出来ヌト云フコトヲ申出テタノテアル、其他ノ國ニ
於テモ今日ノ國際ノ問題ヲ決シタ後テナクレハナラヌト云フヤウナコトニナ
ル仍テ第二回ニハサウ云フ問題ヲ避ケル爲メニ一個條サウ云フコトニ言ヒ及
ホシテアリヤマスル終リノ方テアリヤマスカ第八ノ終リノ方ニ國家ノ政治上ノ關
係條約ニ基テ現在ノ地位等各國政府ノ承諾シタル項目ニ直接ノ關係ナキ問題
ハ如何ナル事情ニ依ラス會議ニ附セサルコト勿論ナリト云フヤウナコトカコ
サリヤマスカ是ハ露西亞ノ申出カコサリマシタ後ニ學者ノ意見等ニ因テ現在ノ

地位等ニ付テ問題カ出ルト何ウ云フコトニ成至ルカモ知レナイト云フヤウナ意見カ續々出マシタカラ其處等ニ付テハ餘程注意ヲシタモノト見エマス、仍テ此節第二ノ題文ノ大意ハ左ノ二點テアルノコトイマス、即チ一ツハ今日陸海軍ノ軍備カ殊ニ膨脹シテ居ルカラ之ニ制限ヲ附スル、何トカシテ之ヲ切メテ此上擴張セナイ位ノコトニハシタイ、出來ルコトナラハ尙ホ之ヲ縮小シタイト云フノテコサリマス、今一ツハ即チ從來國際關係ノ終局ハ腕力ニ訴ヘ即チ戰爭ニ訴ヘテ居ツタノテアルカ之ヲ平和的ニ收ムル方法ヲ研究シヤウ、此二ツノ目的カ明ニナラタノテアル、隨テ豫メ各國ノ政府テ此會合前ニ於テ意見ヲ定メテ貰ヒタイト云フ問題カハツハカリ題ツテ居リマス之ニ付テサツト述ヘル體テアリマス

一ツカ時期ヲ限定シテ陸軍及ヒ海軍現在ノ常備兵及ヒ之ニ對スル軍事費豫算ヲ増加セサルノ約束ヲ爲シ、並ニ將來ニ於テ尙ホ此上ニ常備兵數及ヒ軍事費豫算ヲ減少スル方法ニ付テ豫備ノ政究ヲ爲ス件之ヲ言葉ニシテ言ヒマスルト現在ノ兵數又ハ現在ノ費用ヲ此上増スマイ増サナイノミテナイ、退令減少シヤウト

云フ方法ヲ會議ヲ議シタイカラ豫メ各國ノ政府カ内テモ許諾ヲシテ會議ニ出テ來テ呉レト云フノテアル、是ハ餘程困難ノ問題ヲ又私ノ關係スル問題ヲナク軍人ノ方ノ問題テアルカラ是ハ今日別ニ政究ヲ爲スコトハシマセズ、ソレカラ第二第三第四トズツト七ツマテノ間ハ之ヲ一括シテ言フト戰爭ノ慘酷ノ度合ヲ輕クシヤウ即チ其中ニ武器ノ使用ナトモ制限スルト云フコト、又從來ノ戰事法ヲ明ニシヤウ、又其適用ヲ廣クセヨウト云フコトデス、此後ノ部分ニ付テ最モ國際法ノ關係カ出テ參リマス、第二ハ陸軍及ヒ海軍ニ於テ總テ新種ノ銃砲及ヒ新種ノ爆發物ヲ使用スルコト並ニ現ニ使用スル爆發物彈丸ヲ銃砲及ヒ大砲ニ使用スルコトヲ禁スルコト、要スルニ餘リ爆發物ナトノ新ナモノヲ發明シテ益々慘酷ナ武器ヲ用フルコトハスマイ、又現ニ在ル總テノ爆發物ヲ用ヒナイト云フコト云フノテアル、ソレカラ次ノ第三ハ爆發物ノコトテアリマスカ是ハ輕氣球カラ投タリ其他總テサウ云フコトヲシナイ戰爭ノ時慘酷ナ物ハ用ヒナイト云フノテアル、第四ハ水雷艇ヲ用ヒナイト云フコト、此等ハ總テ戰爭ノ害惡ヲ少クシヤウト云フノテコサリマシテ彼ノ爆發物ノコトニ付キマシテハ從來

條約ヲアリキニ諸君御承知ノ通り千八百六十八年十二月十一日ニ露西並ニ
都下並彼得堡ニ此爆發物ニ付テハ條約カコサリマス、總歩用ヒヨト云フンザハ
ナイ是ハ爆發物ノ彈丸ニ四百グラム以下ノ小サイモノヲ入レナイ是ハ無用ニ人
ヲ傷タ害フト云フンテソレ等ト同シ精神ニ出タモノテアル、第五ハ千八百六十
四年「ジュネーヴ條約」ノ規定ノ千八百六十八年追加條項ノ規定ニ依リ海戰ニ適
用スルコト是モ諸君カ御承知ノ通り千八百六十四年「ジュネーヴ條約」云フ
ノハ彼ノ戰時ノ負傷者ヲ取扱フ病院ヲ侵スヘカラス之ニ關係シテ居ル人ハ
戰爭以外ニ立チ中立ニ立ツト云フ所謂赤十字條約ノ本テアル、是ハ千八百六十
四年ノ八月二十二日ニ各國ノ間ニ出來タモノテ條數ハ僅カ十個條トコサリマ
ス、ソレカラ追加條約ノ千八百六十八年ノハ即チ其年ノ十二月カラ二十日間ニ
「ジュネーヴ」各國ノ間ニ取給ンタノテ五個條アル、其中ニ海戰ニ關スルコトモ
書イテアル從來ハ之カチカツタカ此追加條約ニハ書イテアルカラソレテ適用
シヤウト云クンテアル、ソレカラ第六ノ海戰ノ中途及ハ後ニテ難船者ヲ救助ス
ル船舶ハ中立トスルコト是モ矢張り此等ノ條約ト同シ精神ノモノテアル、ソレ

年第七ハ千八百七十四年「オランダ」會議ヲ議定シテマダ批准済ニナラナ
カヲタモノテ急ニ戰時ノ規則トシヤウト云フコト是ハ彼ノ今日アリマスル所
ノ條約ヲ成立スル所ノ戰時法テアル、所カ是ハ條約案トシテ出來テ居リマ
スルカ條數ハ五十六個條程コサリマスカ爾後彼ノ國際法學會歐羅巴ノ國際法
協會カ千八百八十年ニ「オクスフォード」會議ヲシマシタ時ニ尙ホ之ニ改正
ヲ加ヘテ都合八十六個條程ノ戰時法案ト云フヤウナモノカ陸軍タタニ關シテ
出來テ居ル、之カ日本ヲモ日清戰爭ノ時ニ第一軍ヲアリマシタカ之ニ訓令カ出
マシタモノ主トシテ是カラ出タノテアル、サウ云フモノカ出來テ居リマスカタ
從來ノ條約案ハ不完全ニナツテ居リマスカラ之ヲ改正シテ立派ナ戰時法トス
ルト云フ積リノ立案テアル、是タタニコトハ斯ウ云フモノテアルト云フコトヲ述
ヘマスカ第八カ私力述ヘヤウト云フコトニ最も關係アルコトテアル、ソレハ國
民間ニ於テ兵力爭鬭ヲ避ケル爲メ調停ノ媒介ヲ使用スルコト、是ハ戰爭ニオ
テ國際關係ヲ起シテ來タ時ニハ成ルヘク調停スルト云フコト並ニ成セ得
ルキ條合ニ於テ調停仲裁ノ判ニ附スルコトヲ原則トシテ承諾シ是カ其方條

及ニ適用ニ付テ協議ヲ遂クルコト此仲裁ノ探擧ト力任意トカ云フコトハ國際問題ノ起ル時ハ成ルベク仲裁ニ附シテ事ヲ繼メヤウト云フノテアル而シテ果シテ仲裁ニ附スルカ附セナイカハ國家ノ意思如何ニ因リテ定ムルコト云フノテアル即チ義務仲裁ト云フコトニ反對スル詞テ此ノ如キ場合ハ何時テモ仲裁ニ附セナクハナラヌト云フヤウナモノテハナク、場合ヲ見計ラテ仲裁ニ附スルコト云フコト之カ最モ今日行ハレテ居リマス、此カ今日平和問題ノ一ツノ問題ニナツテ居ル事柄テアリマス、此回ノ會議ハソレニ付テ能ク協議ヲシテ此事ヲ何ウ云フコトニスルコト云フコトヲ言ハウト云フノテコサリマス、之カ私カ述ヘヤウト云フ問題ニ大ニ關係カコサリマス、ソレカ回文ノ末尾ニ此度ノ會議ハ大國ノ都テ開カナイ中立國ノ小サイ都カ何カテ開クト云フコトカアル極ク大キナ問題ニナリマスト兎ニ角一國ニ利害ノ問題カアルト騒ガシテ平氣テ會議ヲ開クト云フコトカ出来マセスカラ小國ノ都テ開クト云フコトカ書イテアル是タクノ事ヲ述ヘマシテ本題ニ移ルコトニ致シマス、如何ニシテ戰爭ノ今日ノ諸國ハ兵力平和ノ有様ト云フデモ宜シウコサリマス、如何ニシテ戰爭ノ

代リニ法律的ヲ治メルコトカ出来ルカ、法律テ此世界ヲ治ムルコト云フコトカ出来ヤウカ種々ノ説カコサリマスルノテハ私ハ此前ノ議談ニ述ヘマシタカモウニ度簡單ニ其方法タタ繰返シテ其方法ハ如何テアルカト云フコトヲ今日ハ主トシテ述ヘルノテアル、今日ノ實際ニ出テ居リマスル問題ヲ分チマスルト云フト七ヲモ種類カアルノテアル第一ハ今日ノ現在ノ有様ノ上ニ成ルベク容易ニ行ハウト云フノテアツテ少シ姑息ノ説テアル其代リ行ハレ易イ説テアル之カ任意ノ仲裁者若クハ探擧仲裁テアル成ルベク國際問題ハ仲裁テ事ヲ了ハラウト云フノテコサリマス、ソレカラ第二ノ種類ハ今一步進シテ常設ノ國際裁判所ヲ設クヤウ併シ常設ト云フテモ必スレモ常ニ立テ置クノテハナクイ或種類ノ事柄ニ付テミ裁判ヲ開キ、總テノ問題ヲ仲裁ニ附セス種類ヲ定メテ置クト云フノテアル第三ノ説ハ一般ノ國際問題ヲ決スル即チ一般ノ裁判所ヲアツテ而モ常設ト云フコトニシマスル併シカラ是ニハ制裁ヲ附セナイ、後ニ何ウ云フ事柄ニナルト云フコトハ委シク述ヘル積リテコサリマス、ソレカラモウ一

歩進メテ第四ノ說ニ至ルニ云フト一般ノ問題ヲ決スル國際裁判所ヲ設ケテ而モ常設ニシテ之ヲ制裁スル所カ爾レト云フ所カ制裁ヲ附スルト云フガハテモ此說ハ政治上テハ國々ヲナシ單ニ裁判所タケノ寄合ト云フイテアルソレカ今一步進メテ第五ノ說ニナルト云フ所カ爲メニ世界ヲ聯邦若クハ合衆國ニシヤリト云フノテアルソレカ又進メテ第六ノ說ハ世界ヲ一國ニシヤリヤリナクシテ十分ニ此裁判ノ勅用ヲナイト云フノテアル第七ノ說ハ唯リ政治上モ法律上モ世界ヲ一國トシヤリト云フノテハナシ精神上モ一國ニシヤリト云フヲ即チ羅馬法ニ下ニ立テアル精神上モ政治上モ一國トシヤリト云フヲ即チ是イ當否ハ今ニ違ハスルソレハ何ヨ云フ形カヲ出テ來タカ何ヨ云フ人モ何ヨ云フ說ヲ違ヘタカヲ申シテ今日ハ何ヨ云フイカ行ハルカ將來ハ何ヨ云フイカ宜シイカト云フモトヲ簡單ニ述ベテモ其ノ意ハ明カニシヤリ先ノ順ヲ逐テ第一ノ部分カラ述ヘルモトニ致シマス第一ハ即チ今日ノ東西亞ノ疆土ニモアリマスイテ任意ノ國際裁判所ヲ設ケルト云フコト此任意ノ國際裁判ト云フコトハ既ニ多少法律的ノ傾向タリト云フガハテ或學者ナトハ此

界ノ平和ト云フコトハ進メヤスルモ法律的ノ制度ヲ設ケナイトハ自體ニ平和ヲ保タセヤウト云フヤウナ考テスルハモザル隨分迂闊ナ考テアリヤ大カ希望ハ高御テアル例モハ或經濟學者ノ如キハ商業ヲ以テ世ノ中ヲ維持シテ行カセ商業ヲ盛ニスルハ戰爭ハ商業ノ敵ナルガヲ平和ヲ欲スルニ相違ナイ之ヲ益々盛ニシテ行フテ之ヲ發達セシメサレバ自然ニ戰爭ハ無クナルガヲ是テ平和ヲ獎勵シヤウト云フノテアルゾレカラ今一ツハ今日後ノ國際法上ニ國際爭議ヲ決定スル方法カ澤山アツテ平和的ニ治ムル方法モアリ又少シカヲ用フル方法モアル色々ナ方法カアル報復トカ復仇トカ仲介トカ或ハ媒介トカ云フ色々ナ方法アルカラ已ムテ得ヌ場合ニハ今日ノ如ク戰爭チスル戰爭チスルハ畢竟平和ヲ保ツ爲メスルノテアルカラ是テモ平和ヲ維持セラルト云フ說ヲ爲ス人モ多シリマス其說ヨリモ一步進メタノテ任意仲裁判ヲ入レルト云フノハ多少進メタノニハ相違ナイ而シテ任意仲裁判云フコト主張スル學者ナトニ言ハセマスルト國家ハ元來獨立ナルモノテアル獨立テアルカラ強ヒテ其間ニ生シテ國際問題ヲ必ズ仲裁ニ附スルト云フヤウナコトナスルハ

國家ノ性質ニモ反對スルコトアル殊ニ若シ之ヲ義務仲裁ト云フコトニスレハ寧ろ專制國等ヲ得テ自由ノ國ヲハ損テスル如何トナレハ專制國ハ事ヲ秘密ニシテ置イテ色々ナ方法ヲ用ルコト力出來ルカ自由國ヲハ事ヲ公ニシ自治ト云フコト力アルカ妨カアツテ困難ナル要スルニ今日ノ有様アル如ク任意仲裁ノ方法ニ依ルノカ一掃宜シイト云フノテアル此趣意ヨリシテ種々ノ學者カ色々ナ方法ヲ持出シマシテ或ハ世界ノ學者ト云フヤウナモテ格ヘ學者會ト云フヤウナモノヲ格ヘテ戰爭ノ原因ニ付キ正不正ト云フ意見ヲ微スルサウシテ輿論ニ訴ヘルカ或ハ戰爭カ正シクナイト云フコトヲ宣言スレハ宜シイ或ハ又人ニ因リマシテハ各國カラ委員ヲ出シテサウシテ矢張國際問題ニ付テ當否ヲ決定セシムルノレカラ又學者ニ因リマシテハ同シタ今日ノ國際法協會ト云フモノヲモウ少シ盛ニシテ國際法ノ解釋ヲ爲サシメル即チ全ク私イ會ヲアツテ學說上ノ勢力ヲ持タシメル斯ウ云フ位テ満足ヲスルト云フノカ此範圍ノ說アル種々說ハモザイマスカ悉ク仲裁ヲ類ムト類マナイハ其國ノ任意アル問題ノ如何ニ因テソレヲ決スルノテアル國際問題ヲ仲裁ニ依ツテ決

スルハ昔ノ野蠻時代カラ見マスレハ餘程進歩シタニハ相違ナイケレトモ併シマダ學者ノ目的トシテ居ル所カラ見マスレハ餘程幼稚ナモノテアル之カ初メノ任意法テコサリマスルニ對シテハモロイモモ余モ其意ヲ察スル所ナレハカラ第二ハ即チ特別ノ國際裁判所即チ或事柄ニ付テ事件ノ種類ニ因ツテ仲裁ノ判所ニ附スルト云フノテアル是ハ即チ事件ニ因ツテハ常設ニシテ置キマスルカ或種類ノ事件タケニ付テ裁判ヲスルノテ總テノ大キナ問題モ何モ悉ク是ヲ爲スト云フノアハナイ是ハ何ウ云フコトカラ出テ來タカト云フト諸君モ御承知ノ通り捕獲裁判所ト云フモノカアル戰爭ノ際船ヲ捕ヘタ時ニ正當ナルヤ否ヤノコトヲ裁判スル裁判所力出來テ居ル或ハ混合裁判所ト云フモノカアル英佛ノ如キ數個國ノモノカ寄合ツテ裁判ヲ爲スコトカアル是モ既ニ實地ニ行ハレテ居ル又或ハ各國ノ常設委員ト云フモノカアルダニニゾノ委員會トカ「コンゴ」河ニ付テ委員會ト云フモノカアル此等ノモノカアツテ或事柄ニ付テハ國際法ノ適用ヲシテ詰リ自ラ總テノ政治上ノ問題ヲ仲裁ニ附スルコトハ出來ナイケレトモ其問題ノ種類ニ因ツタラハ常設裁判所ヲ置イテ悉ク

執行力ヲ持タセナト即チ制裁力ナクイメテアル、是ハ誰カ言出シモシカト云フ
ト彼「ベンザム」ナトカ言出シタノテアツテ「ベンザム」ノ説ニ據ルト各國カラ二
人ノ代表者ヲ出シテ國際裁判所ト云フモノヲ設ケテサウシテ其總テノ國際問
題ヲ決定セシメル、若シ此國際裁判所ノ決定ニ從ハナイ國カアツタトキニハ其
國ヲ法律以外、國際法以外ニ置ク、即チ國際法ノ適用ヲ受クシメナイ之ニ對シテ
ハ無法ナコトヲ爲シテ宜シイト云フコトニ爲ル、之カ爲メニ國際法以外ニ置ク
ト云フ宣言ヲ爲ス、但シ宣言ヲ爲スタクテアツテ或特別ノ場合ニ同盟ノ力ヲ借
ル場合ハ格別其場合ヲ除イテハ兵力ヲ以テ裁判ノ執行ヲセシメルコトカ出來
ナイノテアル、即チマダ制裁力缺クテ居ルメテアル、尤モ「ベンザム」ハ次第々々ニ
法典ヲ摺ヘルト云フ、此「ベンザム」ノ説ハ初ニ亞米利加テ最モ行ハレテ此説ヲ
取ツタ人カ多ウコサリマス、此説ニ依レハ一方テハ國際法典ト云フモノヲ摺ヘ
他ノ一方テハ國際裁判所ト云フモノヲ造ルメテアル、サウシテ各國ノ委員ヲ裁
判官ニ充テ、其裁判官ト云フモノニハ非常ナ權力カアツテ一國ノ外交官中殊
ニ主要ナル大使ノ如キ特權ヲ持ツテ居ツテ決シテ身体其他何モ冒サレヌ者ト



明治三十二年五月廿九日印刷
明治三十二年五月三十日發行
明治三十三年五月十四日再版

編輯者
東京市西谷區四谷仲町三丁目六番地
小田 幹治 郎

印刷者
東京市芝區西久保明光町十一番地
金子 鐵五 郎

印刷所
東京市芝區西久保明光町十一番地
金子 活版所

發行所 司法省
指定 **和佛法律學校**

所在 (東京市麴町區富士見)
(町六丁目十六番地)

電話 (番町百七十四番)

明治廿二年十二月九日内務省許可